

リレートーク 災間を生きる都市のいま

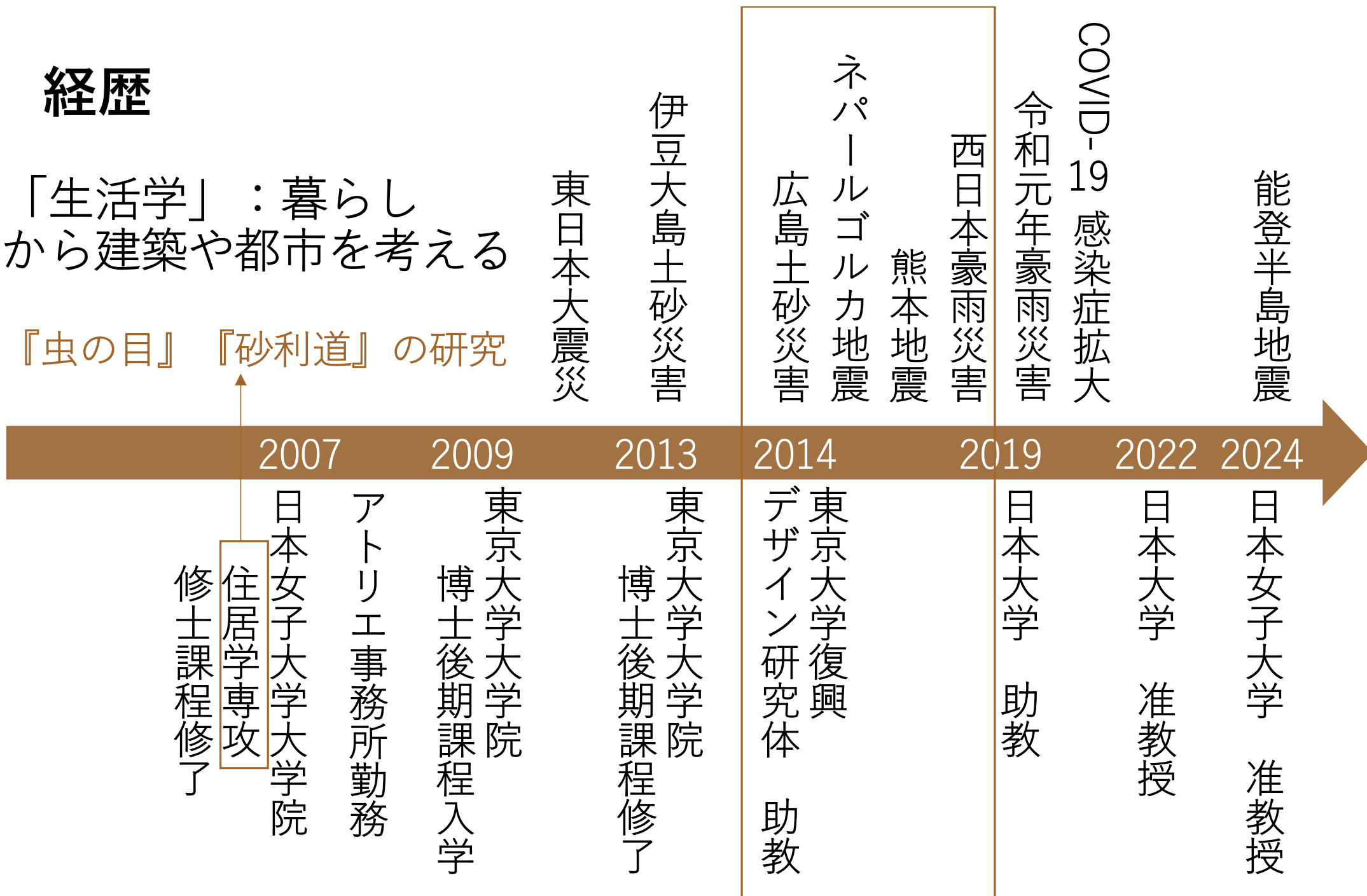
[Episode1] 福島復興（2011）

日本女子大学建築デザイン学部・准教授
井本佐保里

経歴

「生活学」：暮らしから建築や都市を考える

『虫の目』 『砂利道』の研究



復興デザインスタジオ

- ・様々な被災地でのフィールドワークと空間計画の提案
- ・分野横断型（建築-都市-社会基盤）
- ・被災自治体と連携したプログラム

2014年冬
いわき市における避難者受入れのためのアーバンプランニング



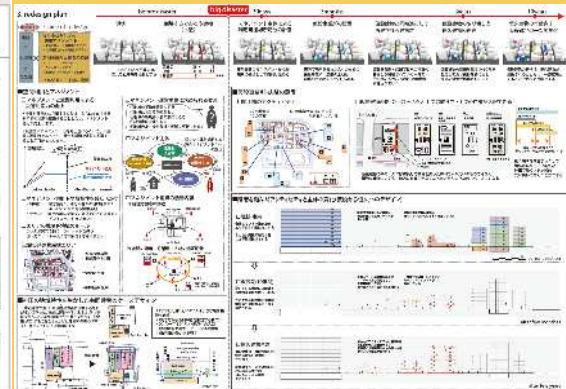
2015年夏
広島土砂災害の現場「への」／「からの」復興デザイン



2015年冬
伊豆大島土砂災害のための提案



2016年夏
首都直下の復興デザイン



2016年冬（英語）
伊豆大島土砂災害からの地域再生



2017年夏
東日本大震災からの復興計画レビュー



2017年冬（英語）
仮設住宅のリユースした高齢者の住まいの提案



2018年夏
宇和海をデザインする（事前復興）



居住地・住宅選択

住まいの移行に関する研究

東日本大震災



熊本地震



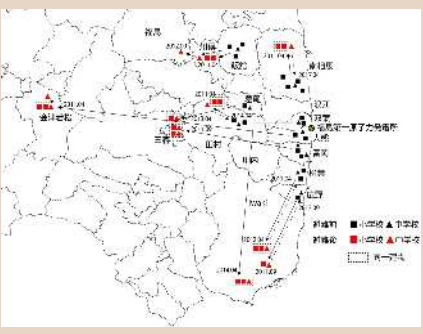
スラム



強制撤去



福島原発事故



仮設住宅



難民キャンプ



伊豆大島土砂災害



ネパール地震



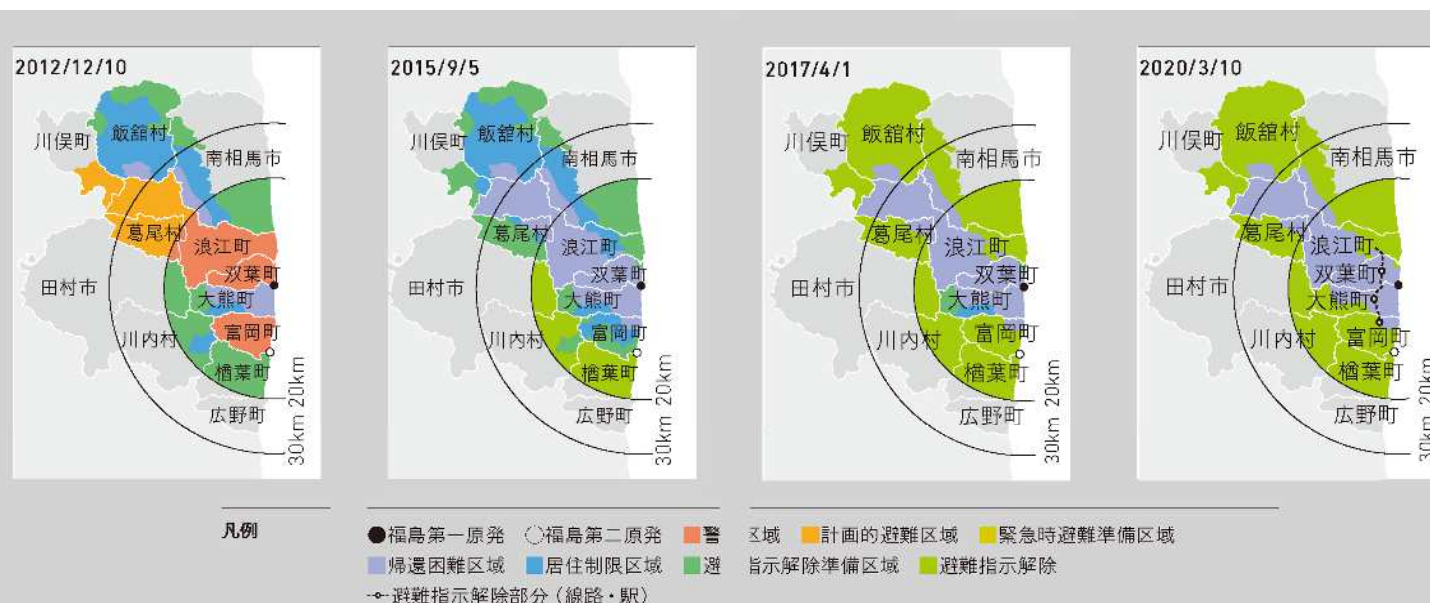
令和元年豪雨災害



能登半島地震



福島原発事故と避難



現在

『福島アトラス01—原発事故避難12市町村の復興を考えるための地図集』
(NPO法人福島住まい・まちづくりネットワーク, 2017.03) より

ピーク時約16万5000人 (2012.05)
現在も25,610人 (2024.12) が全国に避難

出典

ふくしま復興ポータルサイト <https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/shinsai-higaijokyo.html>

福島原発後の再定住のプロセス（避難指示の出された自治体）

避難終了

帰還 — 避難先再定住

直後

約8年後に解消

約2年後以降

避難所

応急仮設住宅

復興公営住宅

親戚宅・知人宅

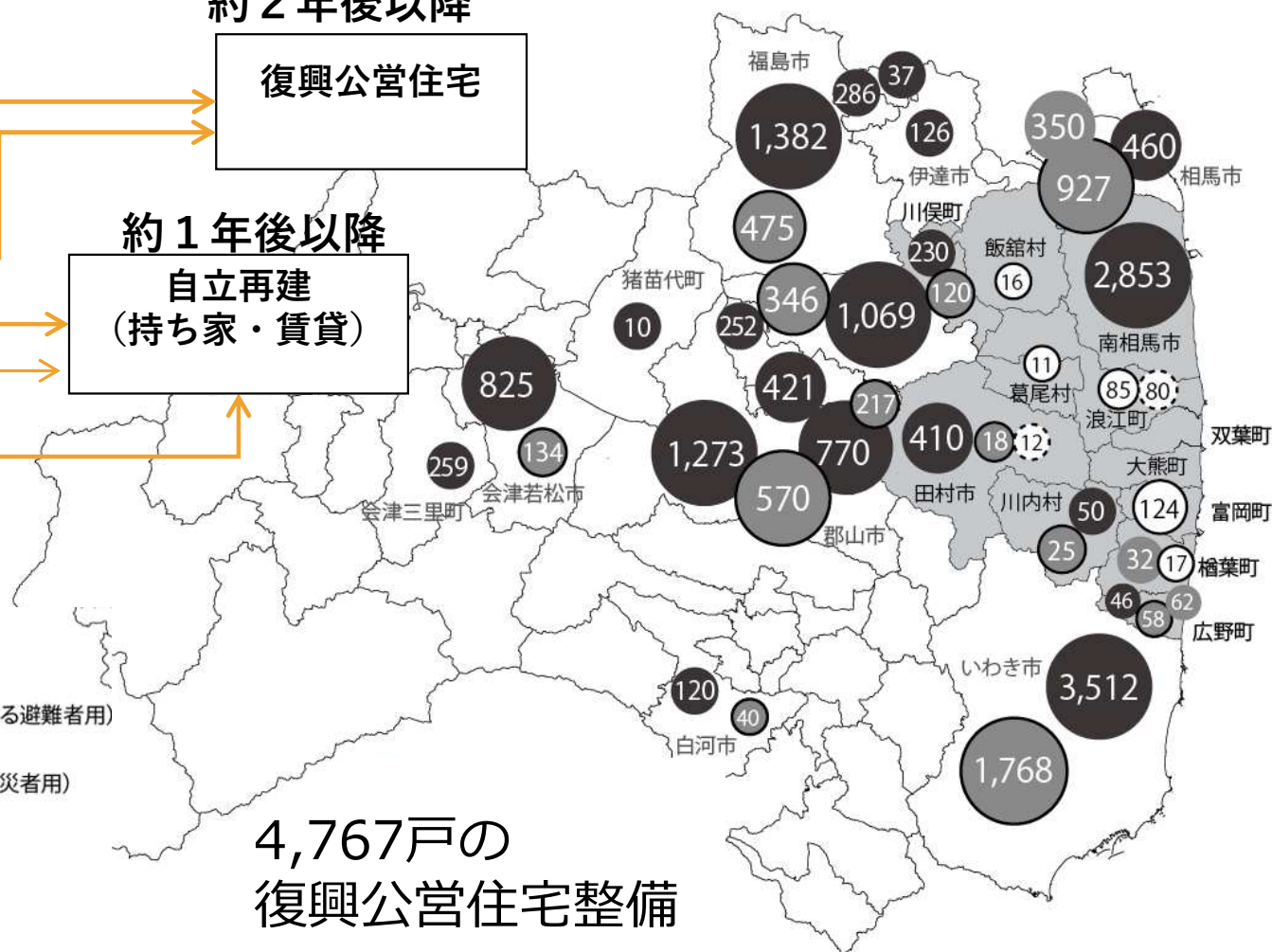
約1年後以降

自立再建
(持ち家・賃貸)

みなし仮設住宅

- 戸 応急仮設住宅
- 戸 復興公営住宅
(原子力災害による避難者用)
- 戸 復興公営住宅
(地震・津波等被災者用)
- 戸 災害公営住宅
(帰還者用)
- 戸 再生賃貸住宅
(帰還者用)

4,767戸の
復興公営住宅整備



行政による拠点の整備

町外から町内へ

2014年

2016年

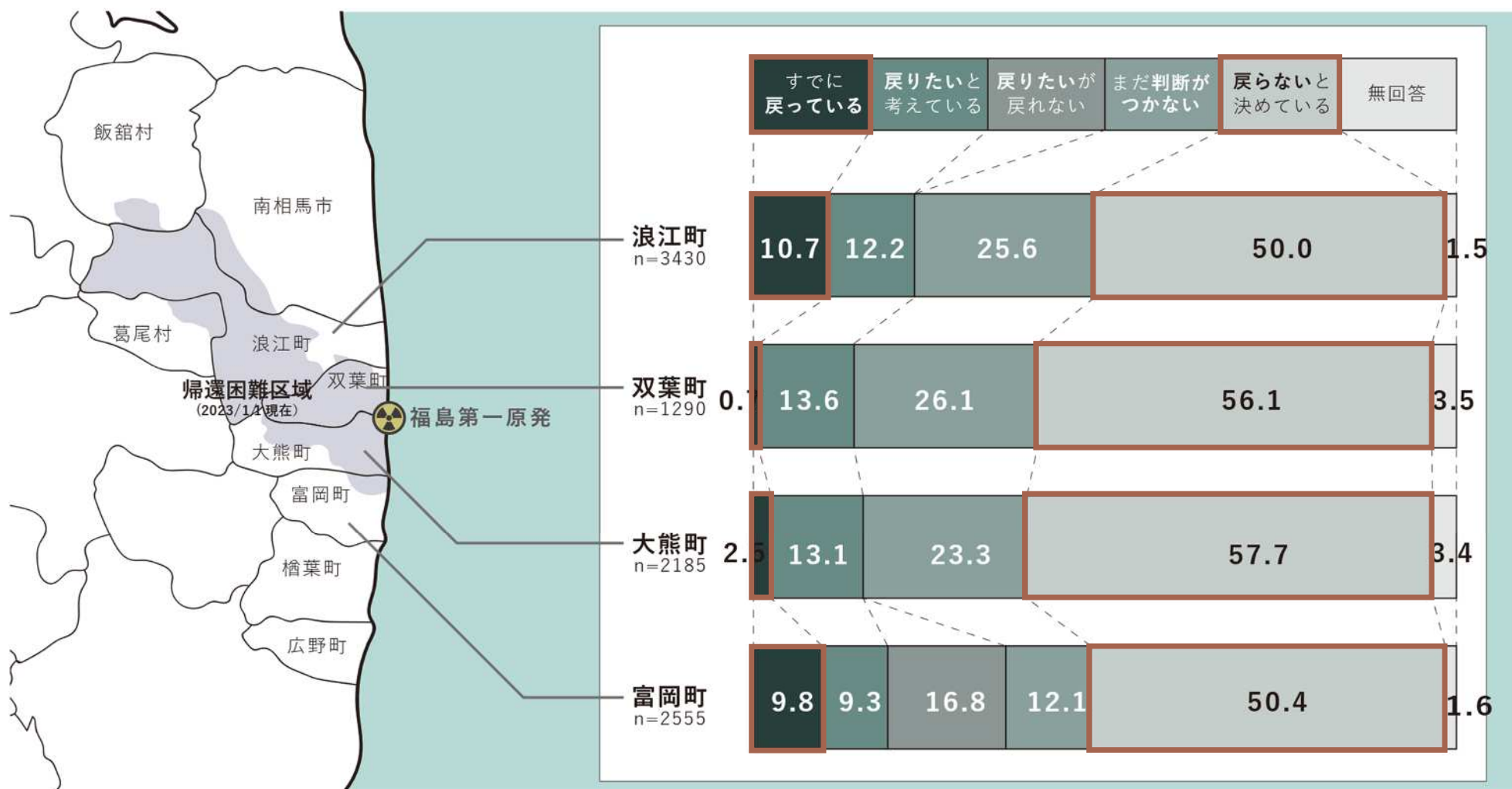
2018年

2020年

各自治体HPより筆者作成



避難自治体の帰還意向（令和4年 ※大熊町のみ令和3年）



原子力被災自治体における住民意向調査（復興庁）

出典 <https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/ikoucyousa/>

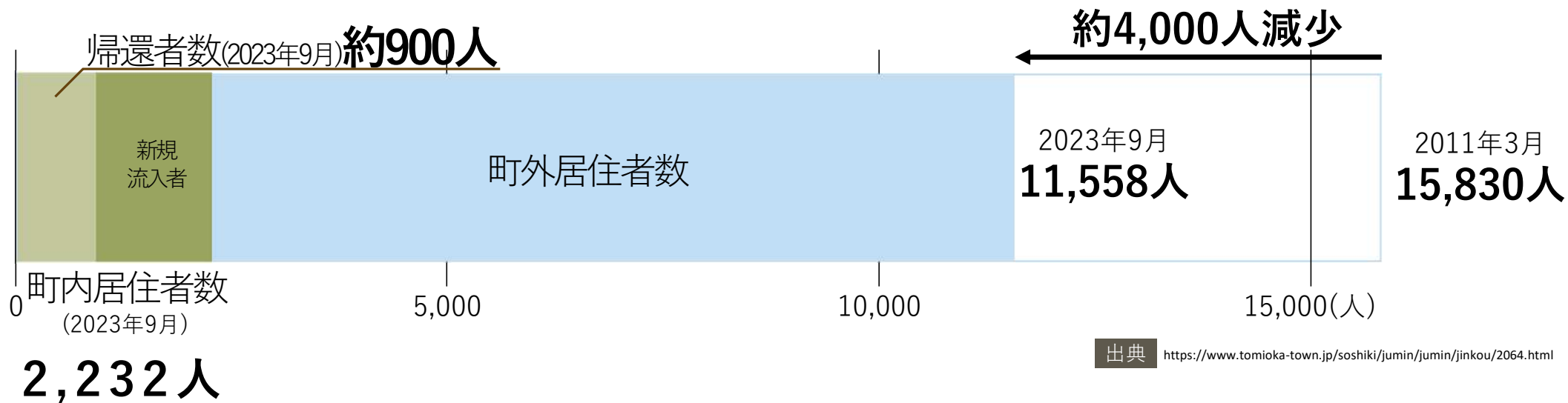
富岡町の現状

避難指示区域の変遷



- **2011/04/22**
町全域が警戒区域に指定
- **2013/03/25**
3つの区域に再編
- **2017/04/01**
一部の避難指示が解除
- **2018/03/09**
帰還困難区域の一部が
特定再生復興拠点区域に
- **2023/04/01**
特定再生復興拠点区域の
▼ 避難指示が解除

富岡町の現状



避難指示解除後、1年が公費解体の期限

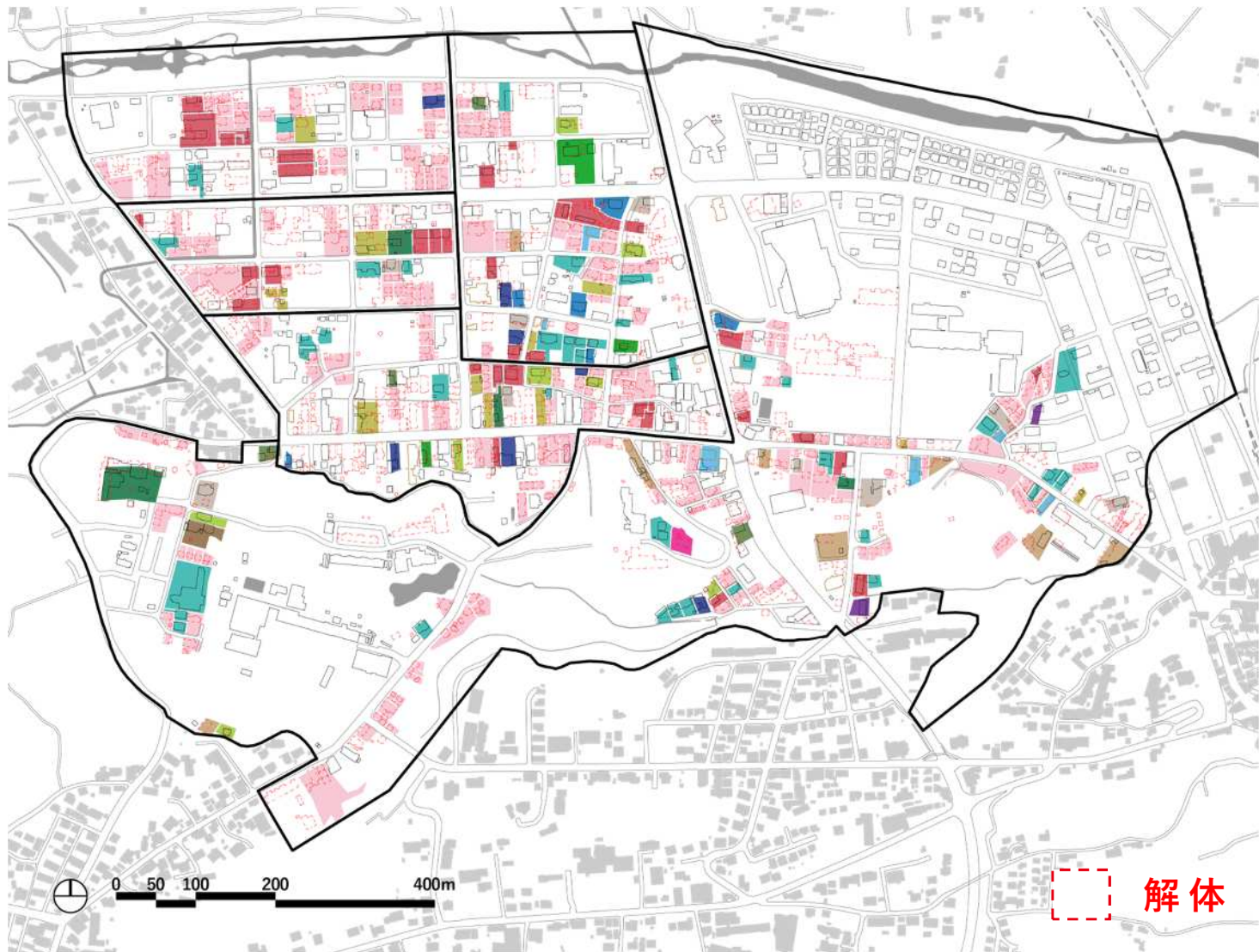
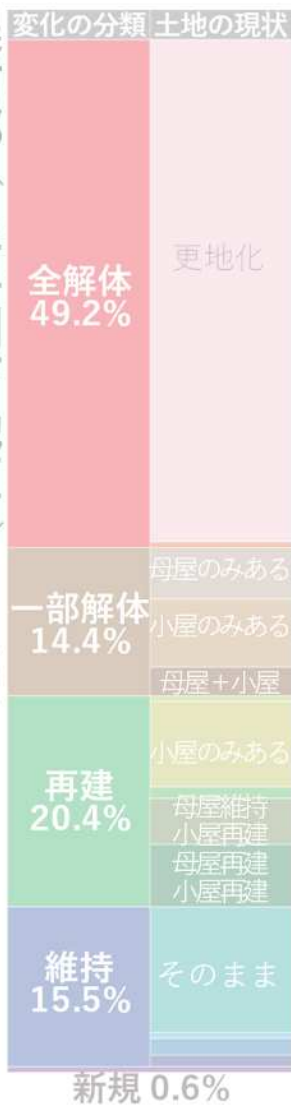
富岡町の現状

原発被災を経た家屋の変化

都市部（本町・中央地区） $n=350$



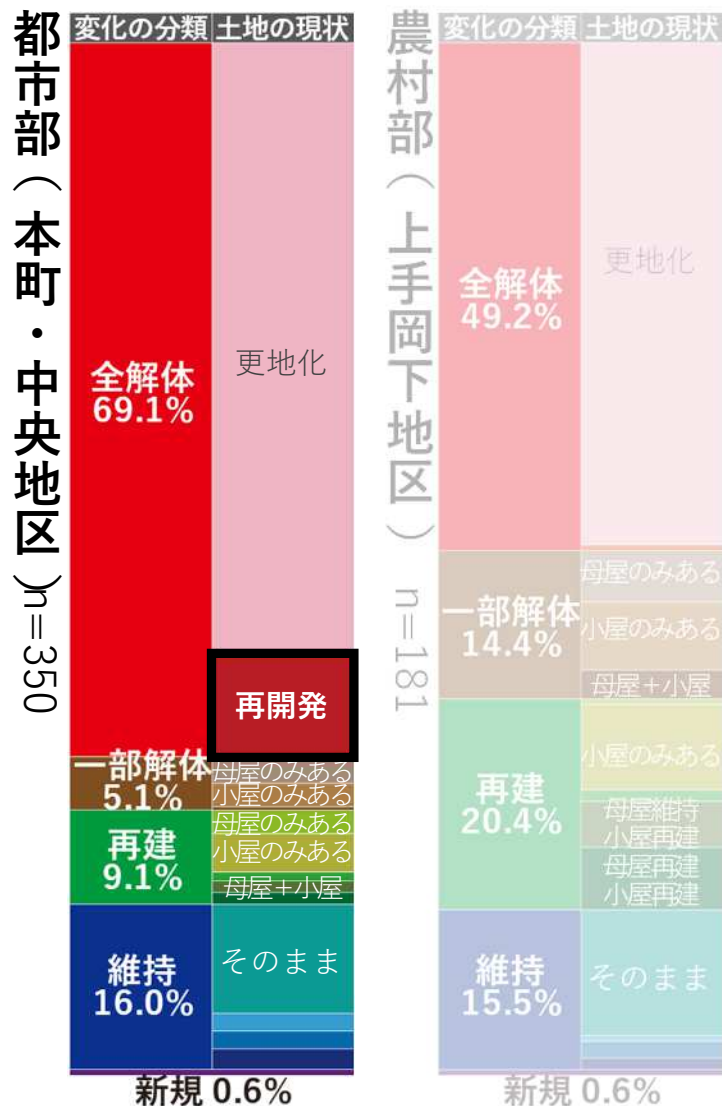
農村部（上手岡下地区） $n=181$



解体

富岡町の現状

原発被災を経た家屋の変化

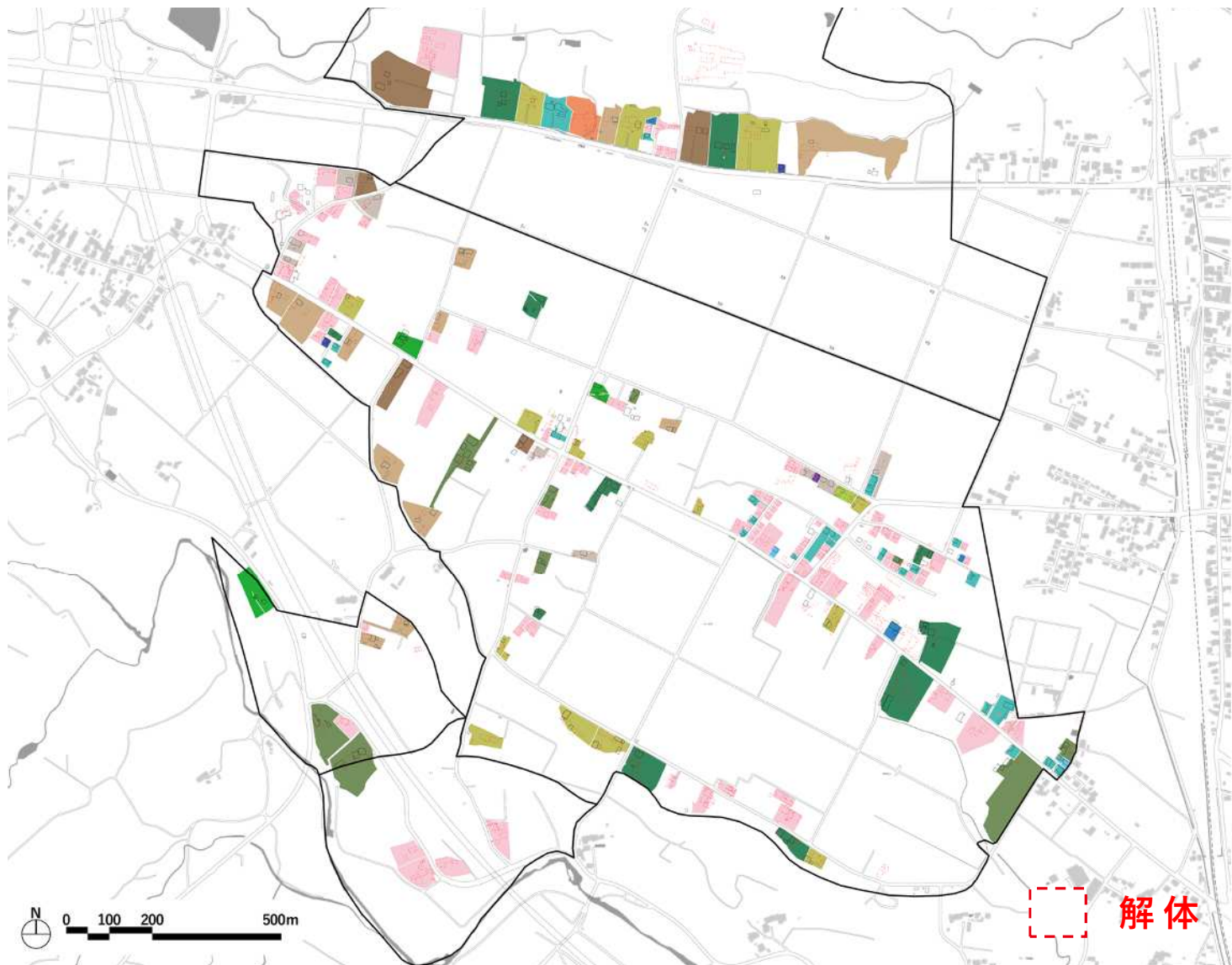
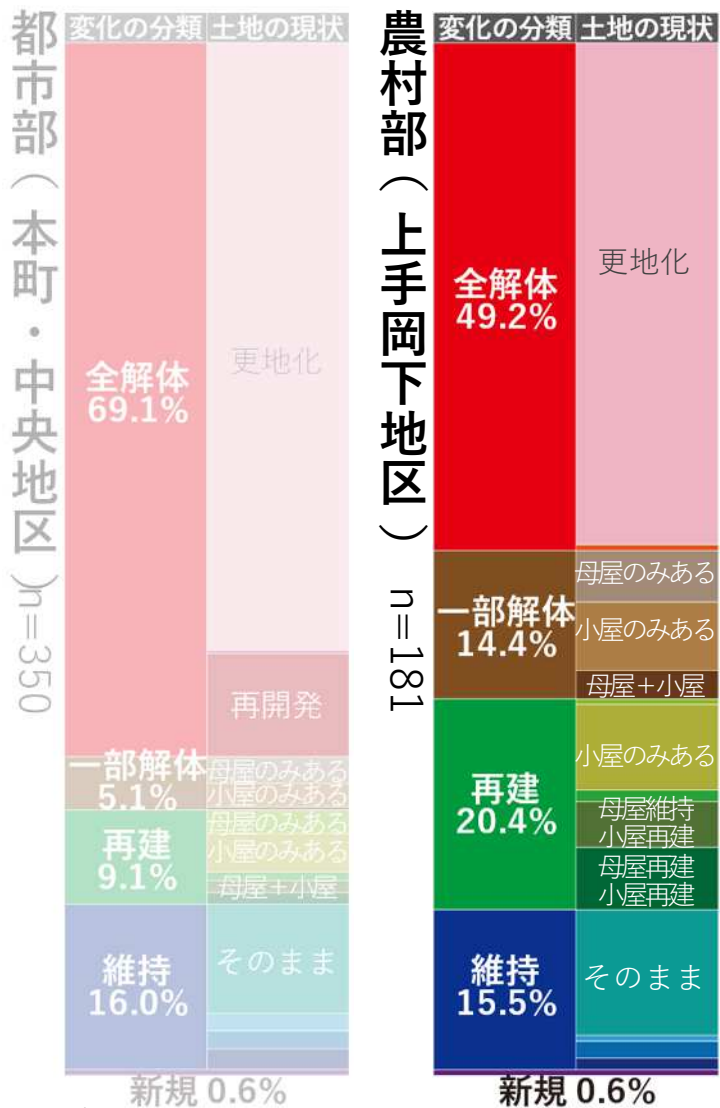


移住者のための 空間整備



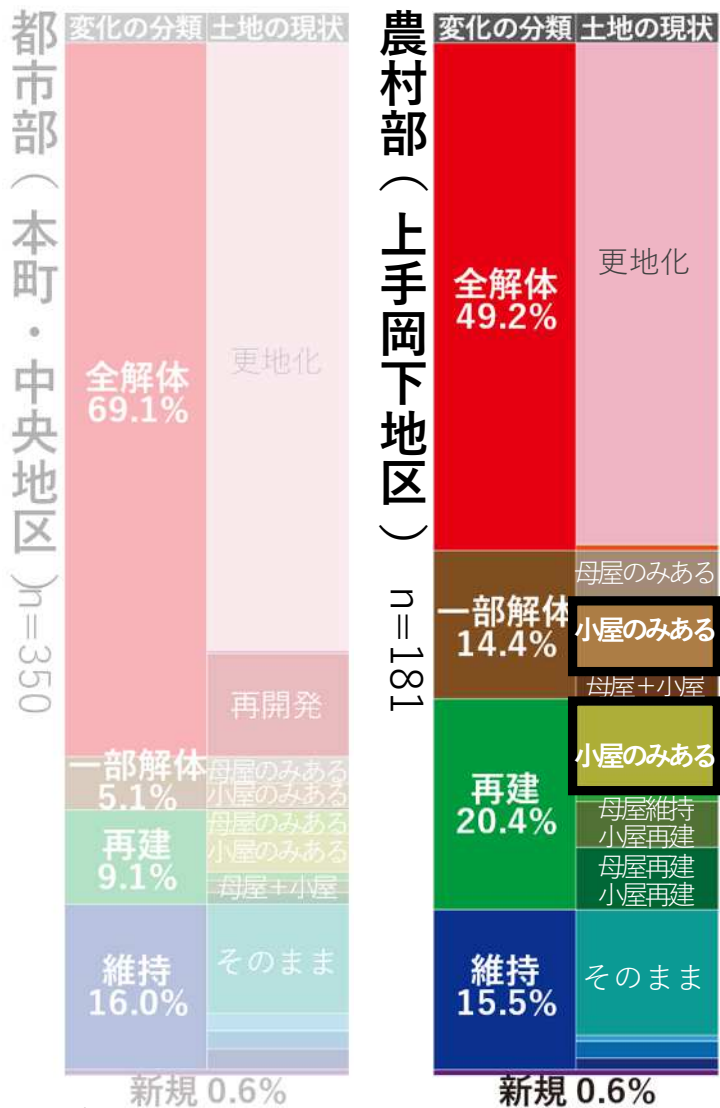
富岡町の現状

原発被災を経た家屋の変化



富岡町の現状

原発被災を経た家屋の変化



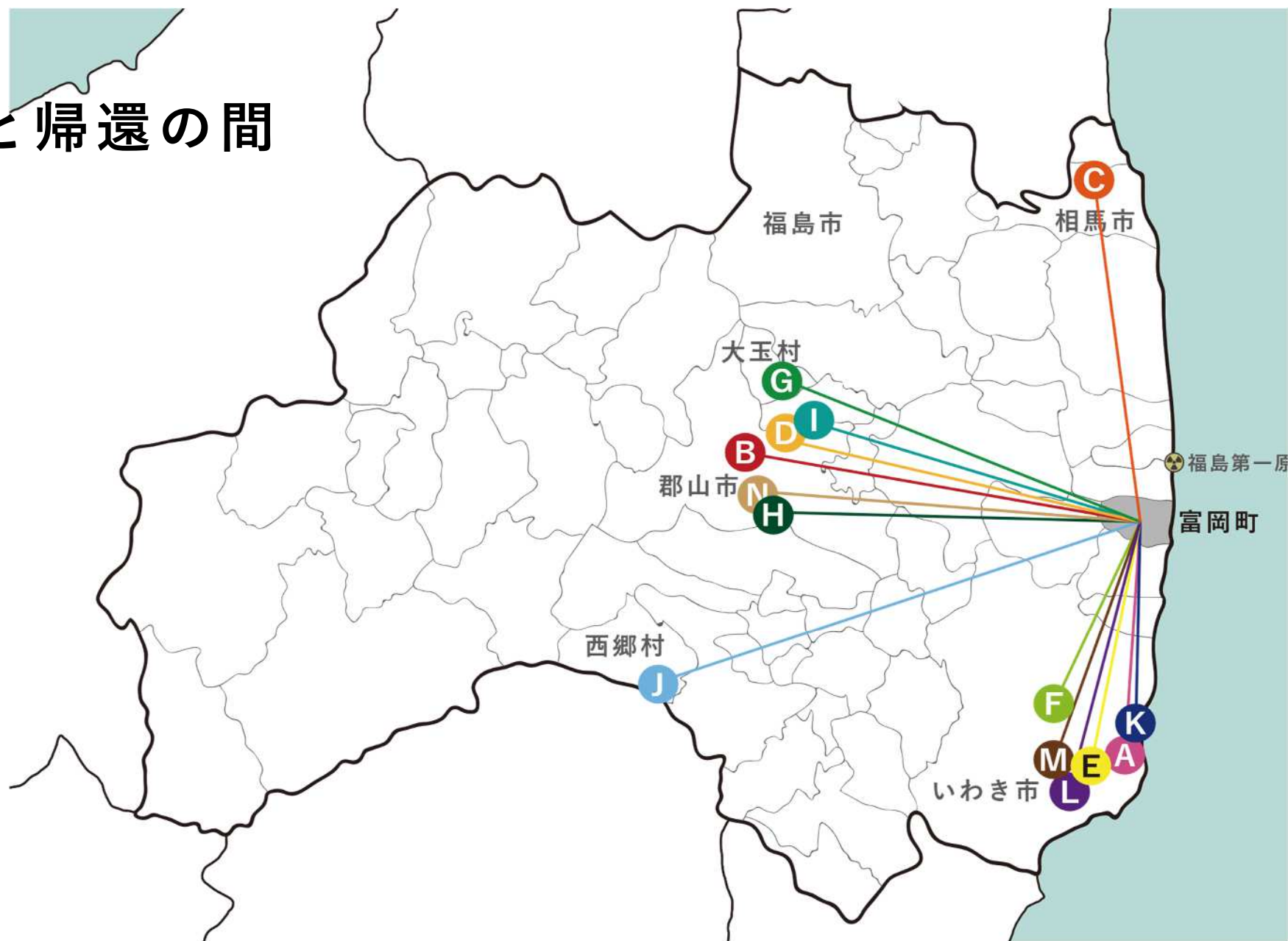
「通い」のための
空間整備



小屋のみを残したり、再建したりしている

避難先定住と帰還の間

「通い」



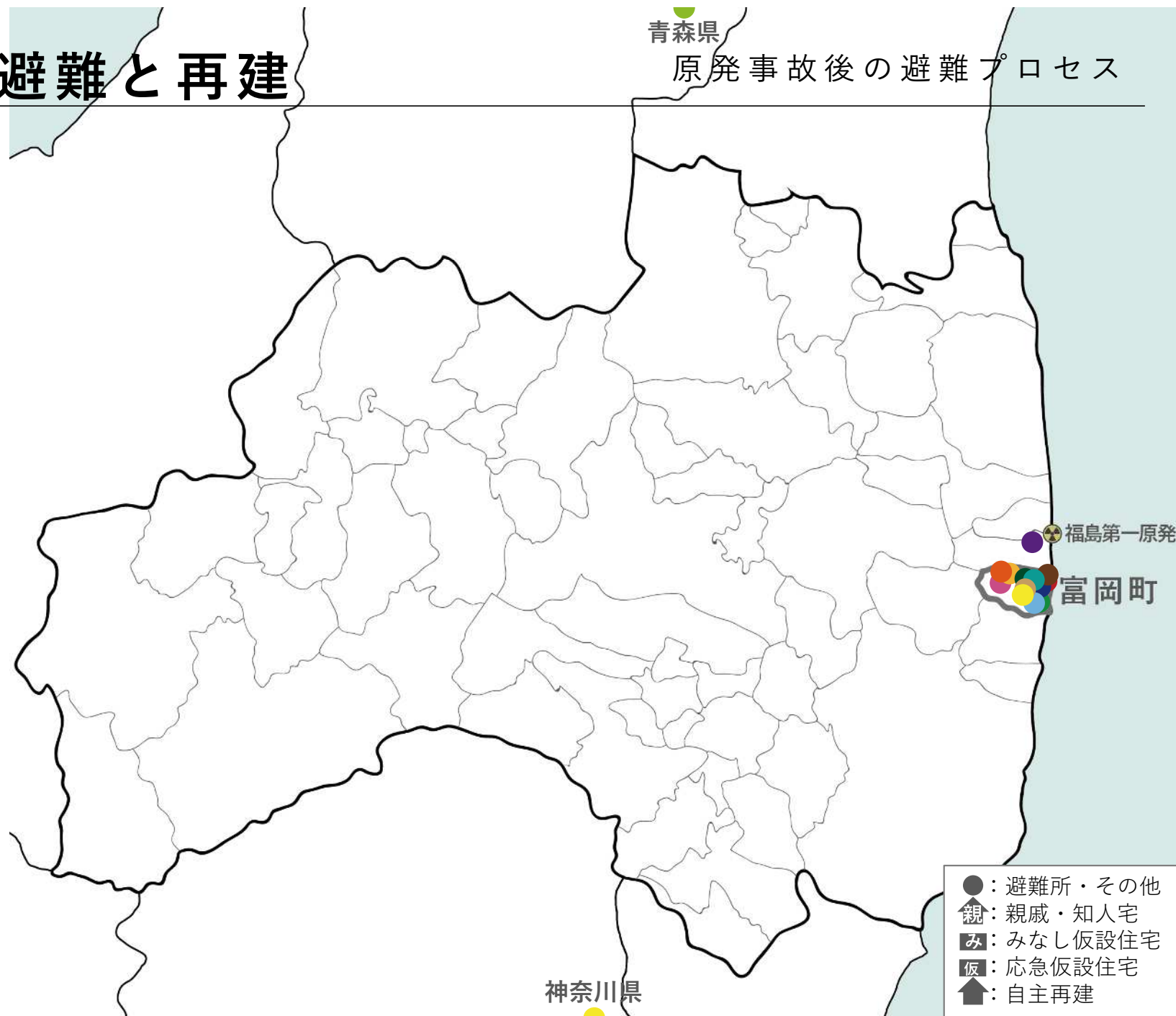
調査対象者の避難と再建

2011.3.11

青森県

原発事故後の避難プロセス

- A** 富岡町
- B** 富岡町
- C** 富岡町
- D** 富岡町
- E** 上京中
- F** 青森県→富岡
- G** 富岡町
- H** 富岡町
- I** 富岡町
- J** いわき市→富岡
- K** 富岡町
- L** 原発で作業中
- M** 富岡町
- N** 福島市→富岡



調査対象者の避難と再建

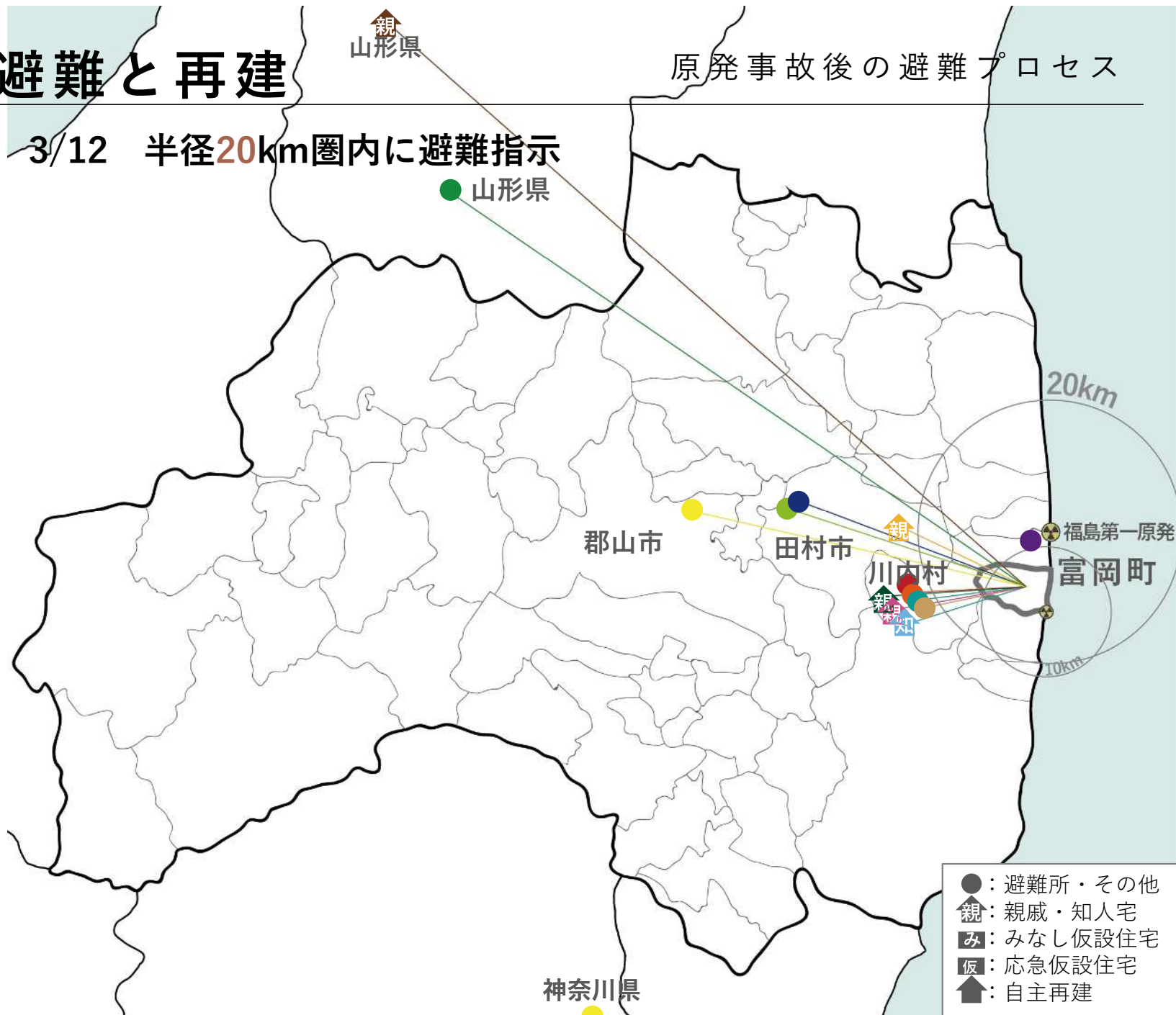
原発事故後の避難プロセス

発災後2週間の動き

3/12 半径20km圏内に避難指示

- A 弟の妻の実家へ
- B 避難対応で川内へ
- C 川内の避難所へ
- D 田村市の実家へ
- E 上京中
- F 田村市で家族と合流
- G 山形の避難所へ
- H 川内の親戚宅へ
- I 川内の親戚宅へ
- J 川内の知人宅へ
- K 田村市の避難所へ
- L 原発で作業中
- M 山形の娘夫婦宅へ
- N 避難対応で川内へ

土川喬太との共同研究

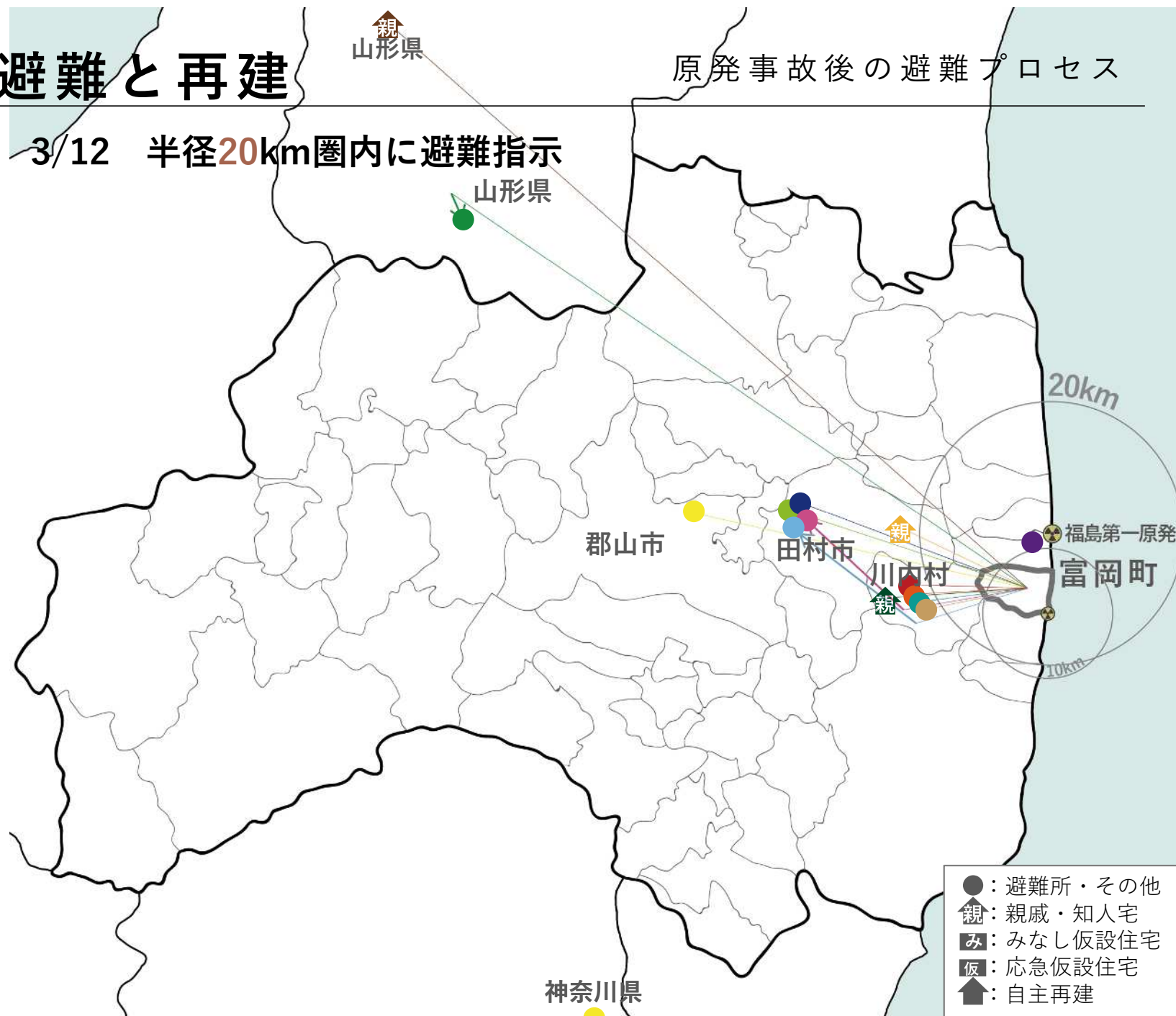


調査対象者の避難と再建

発災後2週間の動き

- A** スーパーで車中泊
- B** 避難対応で川内へ
- C** 川内の避難所へ
- D** 田村市の実家へ
- E** 上京中
- F** 田村市で家族と合流
- G** 満員で別の避難所へ
- H** 川内の親戚宅へ
- I** 川内の親戚宅へ
- J** 田村市で家族と合流
- K** 田村市の避難所へ
- L** 原発で作業中
- M** 山形の娘夫婦宅へ
- N** 避難対応で川内へ

土川喬太との共同研究



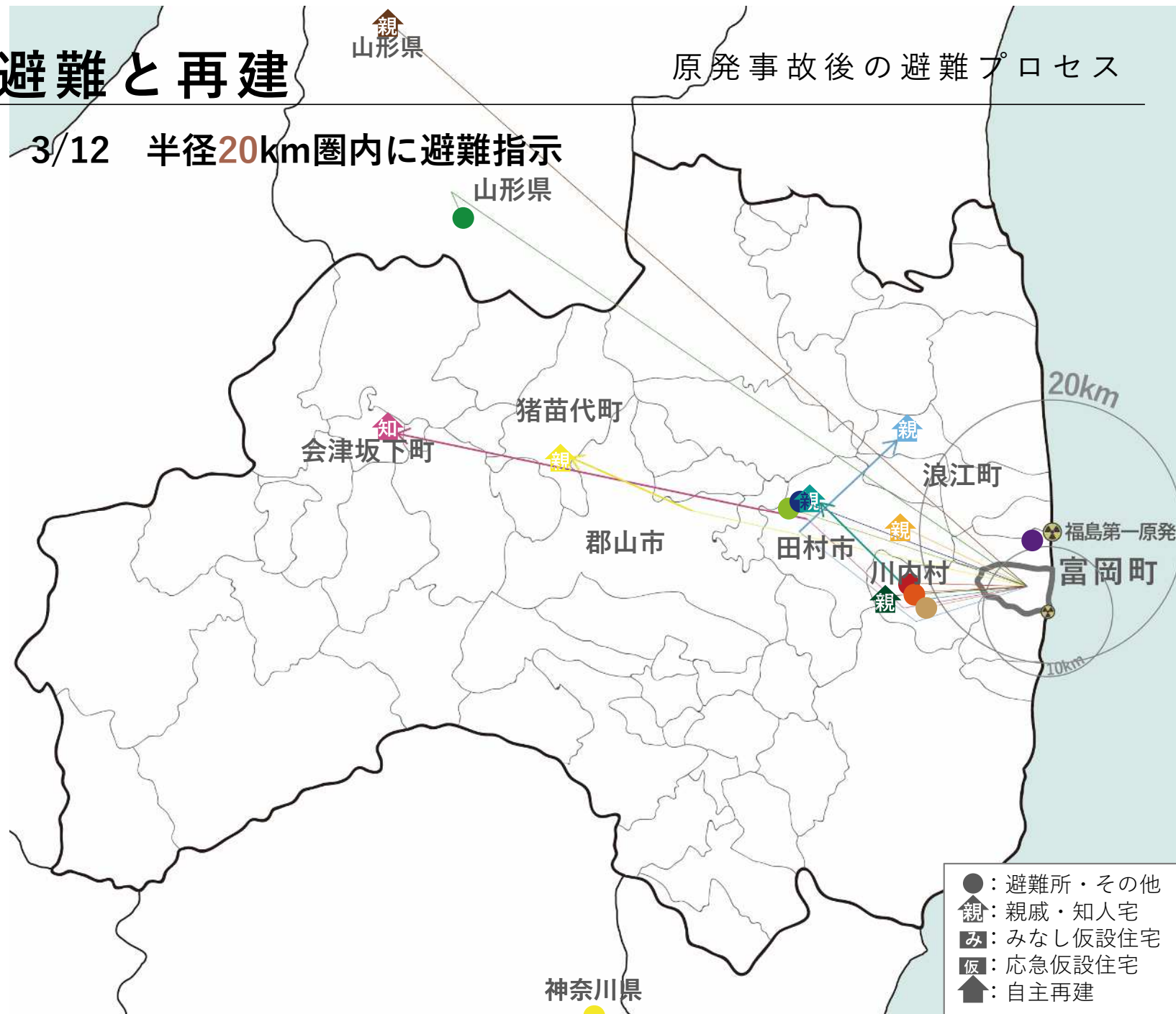
調査対象者の避難と再建

原発事故後の避難プロセス

発災後2週間の動き

3/12 半径20km圏内に避難指示

- A** 知人のお店へ
- B** 避難対応で川内へ
- C** 川内の避難所へ
- D** 田村市の実家へ
- E** 上京中
- F** 田村市で家族と合流
- G** 満員で別の避難所へ
- H** 川内の親戚宅へ
- I** 田村市の親戚宅へ
- J** 浪江の親戚宅へ
- K** 田村市の避難所へ
- L** 原発で作業中
- M** 山形の娘夫婦宅へ
- N** 避難対応で川内へ

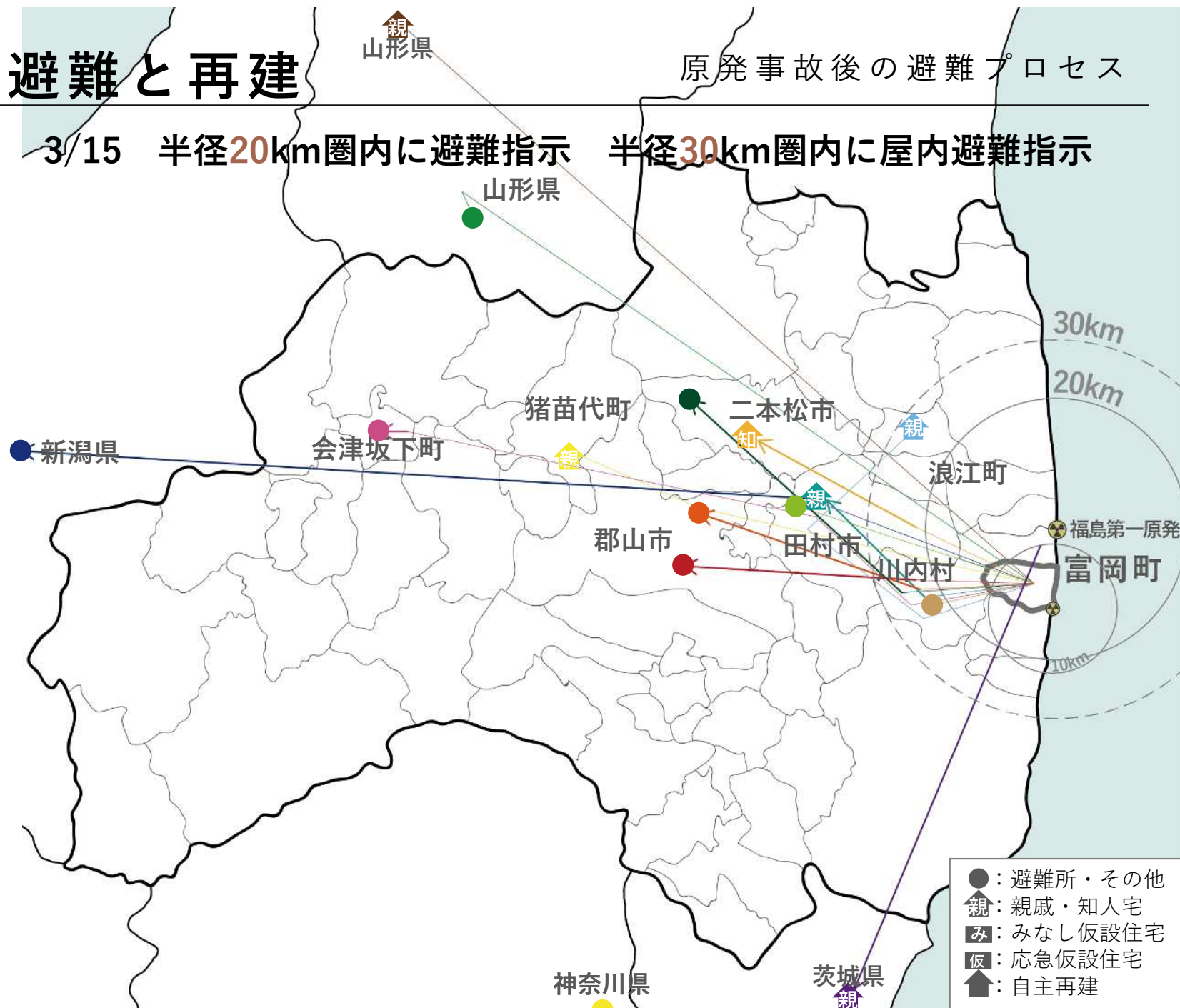


調査対象者の避難と再建

発災後2週間の動き

- A** 近くの避難所へ
- B** 避難対応で郡山へ
- C** 郡山の避難所へ
- D** 二本松の知人宅へ
- E** 上京中
- F** 田村市で家族と合流
- G** 満員で別の避難所へ
- H** 二本松の避難所へ
- I** 田村市の親戚宅へ
- J** 浪江の親戚宅へ
- K** 新潟県の避難所へ
- L** 茨城県の親戚宅へ
- M** 山形の娘夫婦宅へ
- N** 避難対応で川内へ

土川喬太との共同研究

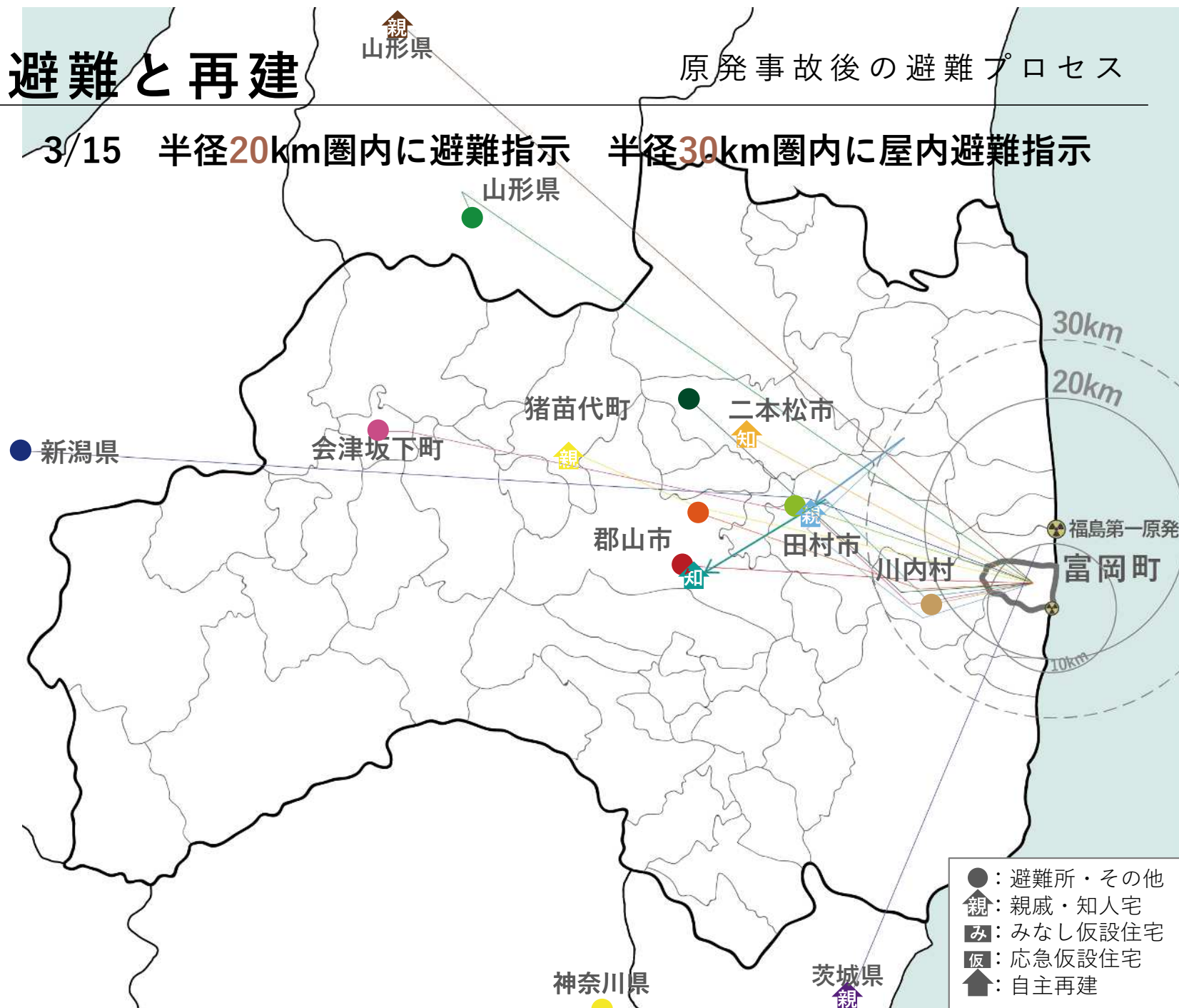


調査対象者の避難と再建

発災後2週間の動き

- A** 近くの避難所へ
- B** 避難対応で郡山へ
- C** 郡山の避難所へ
- D** 二本松の知人宅へ
- E** 上京中
- F** 田村市で家族と合流
- G** 満員で別の避難所へ
- H** 二本松の避難所へ
- I** 郡山市の知人宅へ
- J** 田村市の親戚宅へ
- K** 新潟県の避難所へ
- L** 茨城県の親戚宅へ
- M** 山形の娘夫婦宅へ
- N** 避難対応で川内へ

土川喬太との共同研究

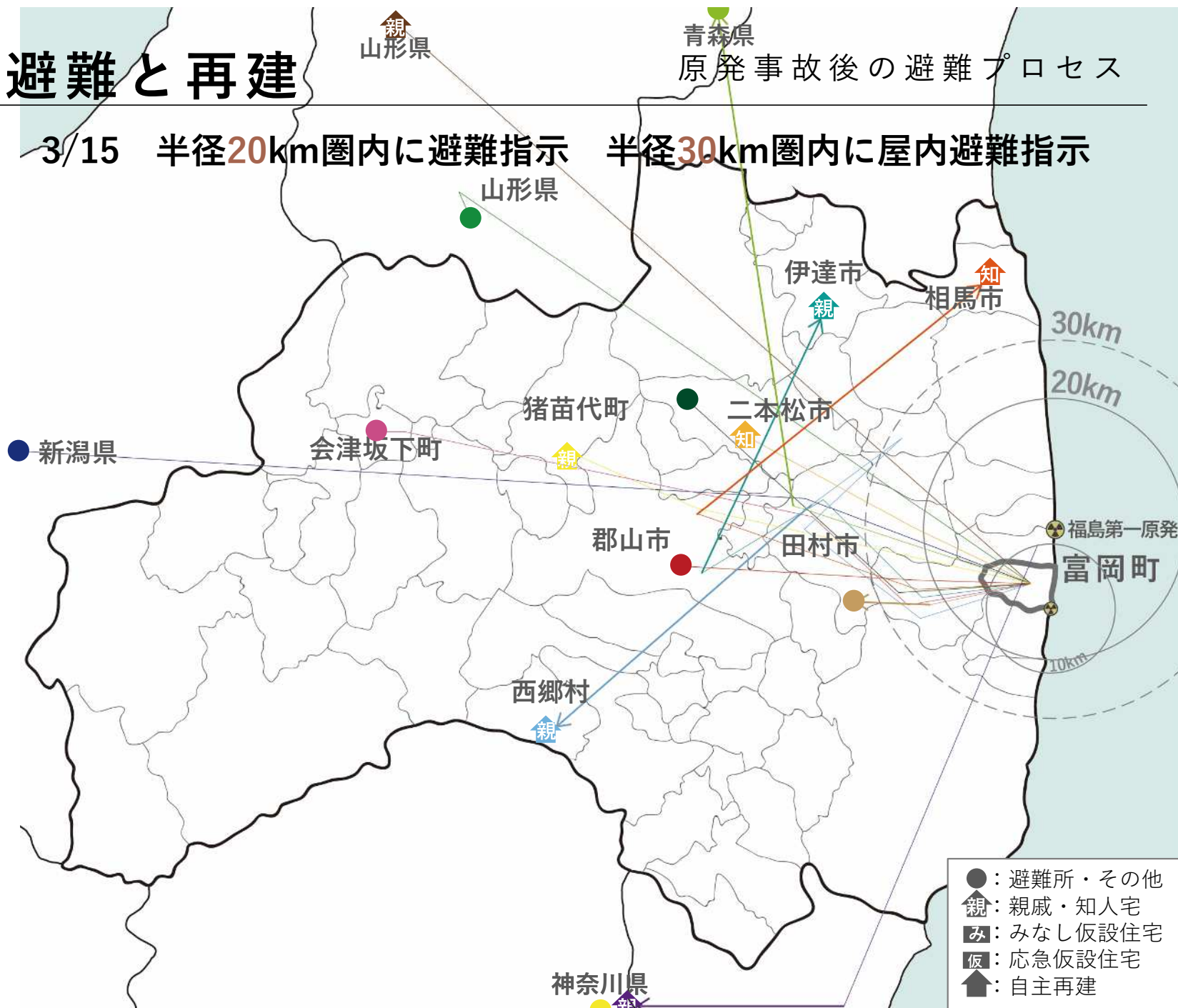


調査対象者の避難と再建

発災後2週間の動き

- A** 近くの避難所へ
- B** 避難対応で郡山へ
- C** 相馬市の知人宅へ
- D** 二本松の知人宅へ
- E** 上京中
- F** 青森の単身赴任先へ
- G** 満員で別の避難所へ
- H** 二本松の避難所へ
- I** 伊達市の親戚宅へ
- J** 西郷村の親戚宅へ
- K** 新潟県の避難所へ
- L** 神奈川の親戚宅へ
- M** 山形の娘夫婦宅へ
- N** 避難対応で田村市へ

土川喬太との共同研究

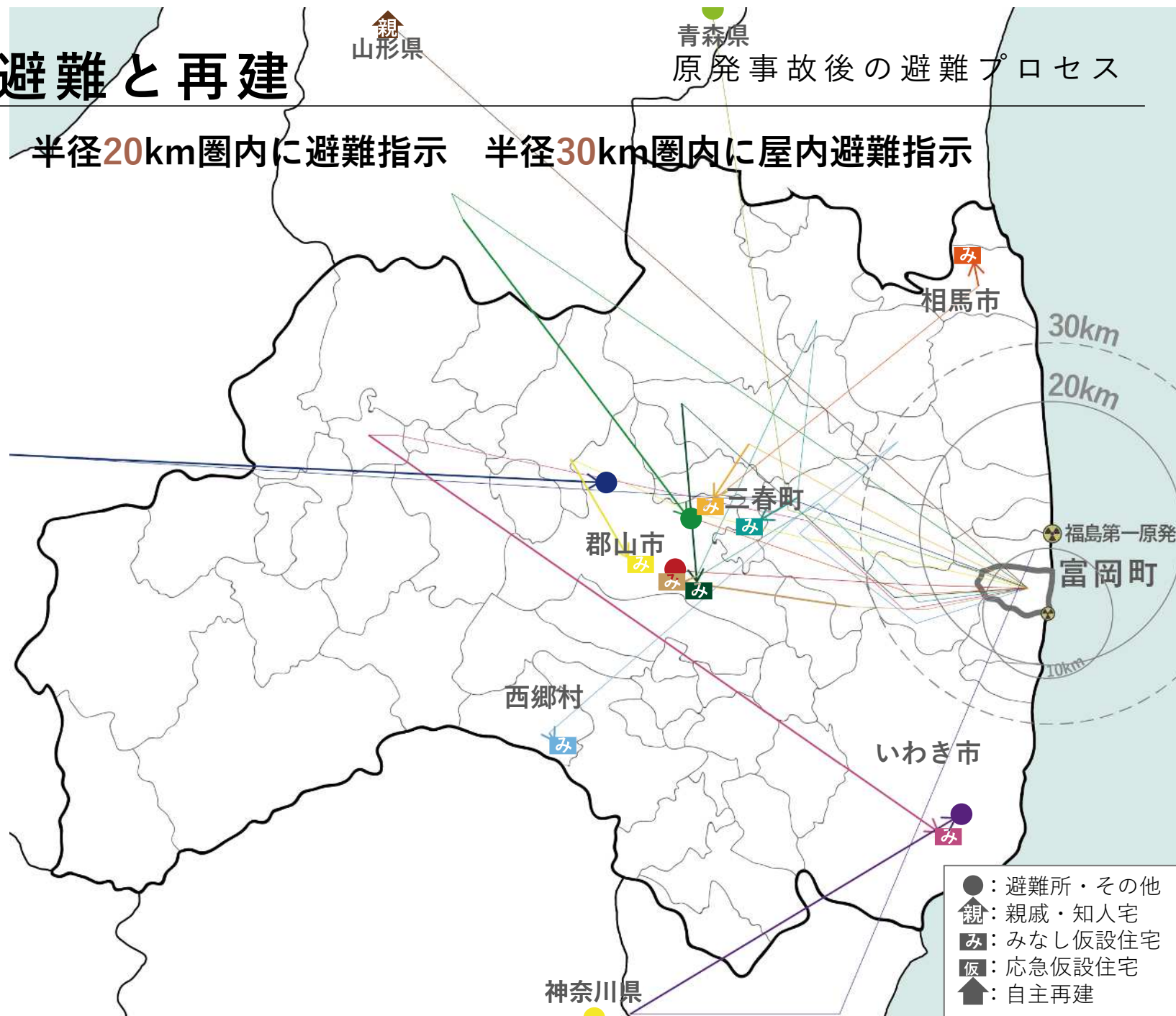


調査対象者の避難と再建

3月下旬以降の動き

- A** いわきのみなし仮設へ
- B** 避難対応で郡山へ
- C** 相馬のみなし仮設へ
- D** 郡山のみなし仮設へ
- E** 上京中
- F** 青森の単身赴任先へ
- G** 郡山のアパートへ
- H** 郡山のみなし仮設へ
- I** 三春のみなし仮設へ
- J** 近くのみなし仮設へ
- K** 郡山の避難所へ
- L** いわきの会社寮へ
- M** 山形の娘夫婦宅へ
- N** 郡山のみなし仮設へ

土川喬太との共同研究

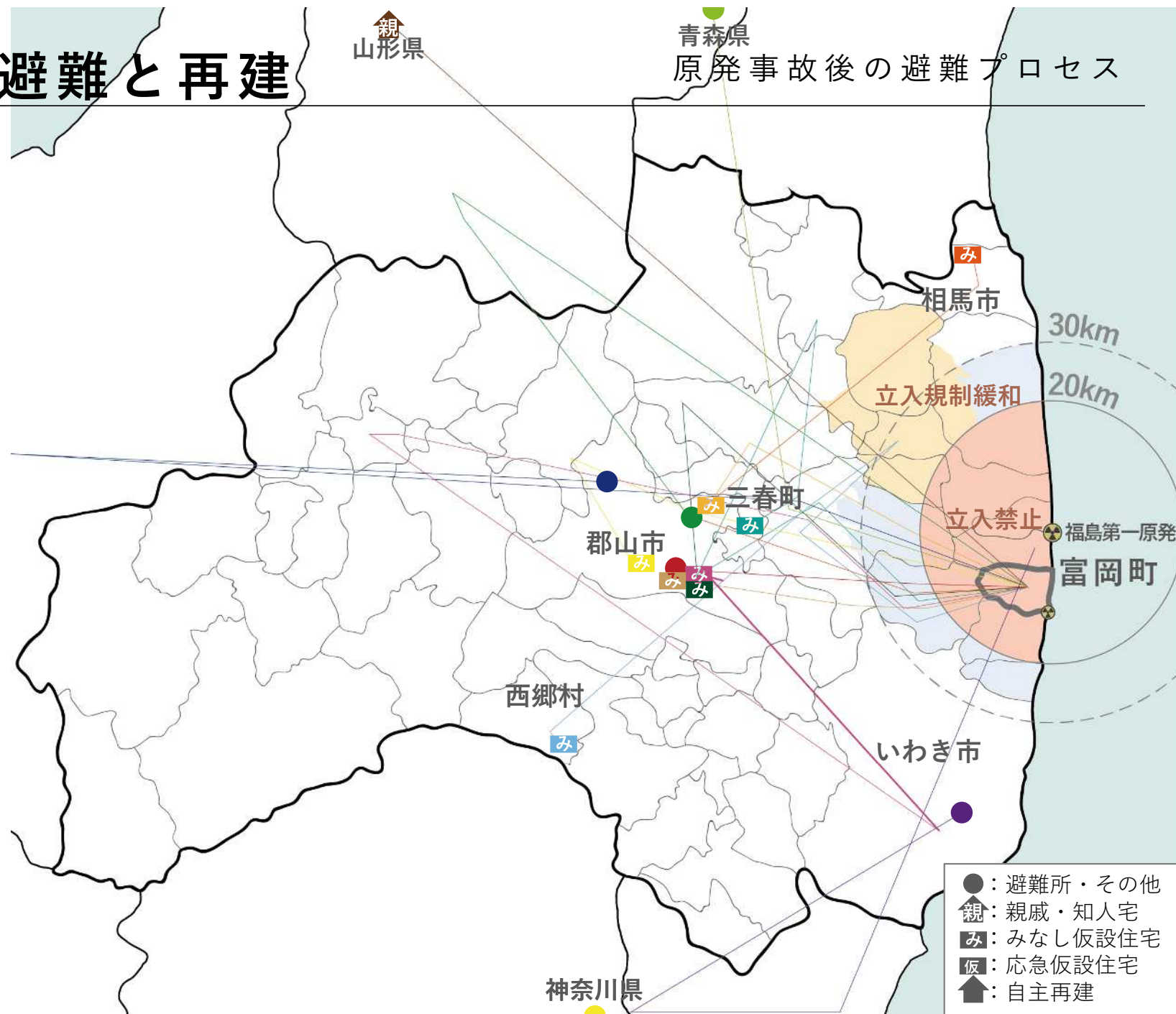


調査対象者の避難と再建

3月下旬以降の動き

- A** 郡山のみなし仮設へ
- B** 避難対応で郡山へ
- C** 相馬のみなし仮設へ
- D** 郡山のみなし仮設へ
- E** 上京中
- F** 青森の単身赴任先へ
- G** 郡山のアパートへ
- H** 郡山のみなし仮設へ
- I** 三春のみなし仮設へ
- J** 近くのみなし仮設へ
- K** 郡山の避難所へ
- L** いわきの会社寮へ
- M** 山形の娘夫婦宅へ
- N** 郡山のみなし仮設へ

土川喬太との共同研究



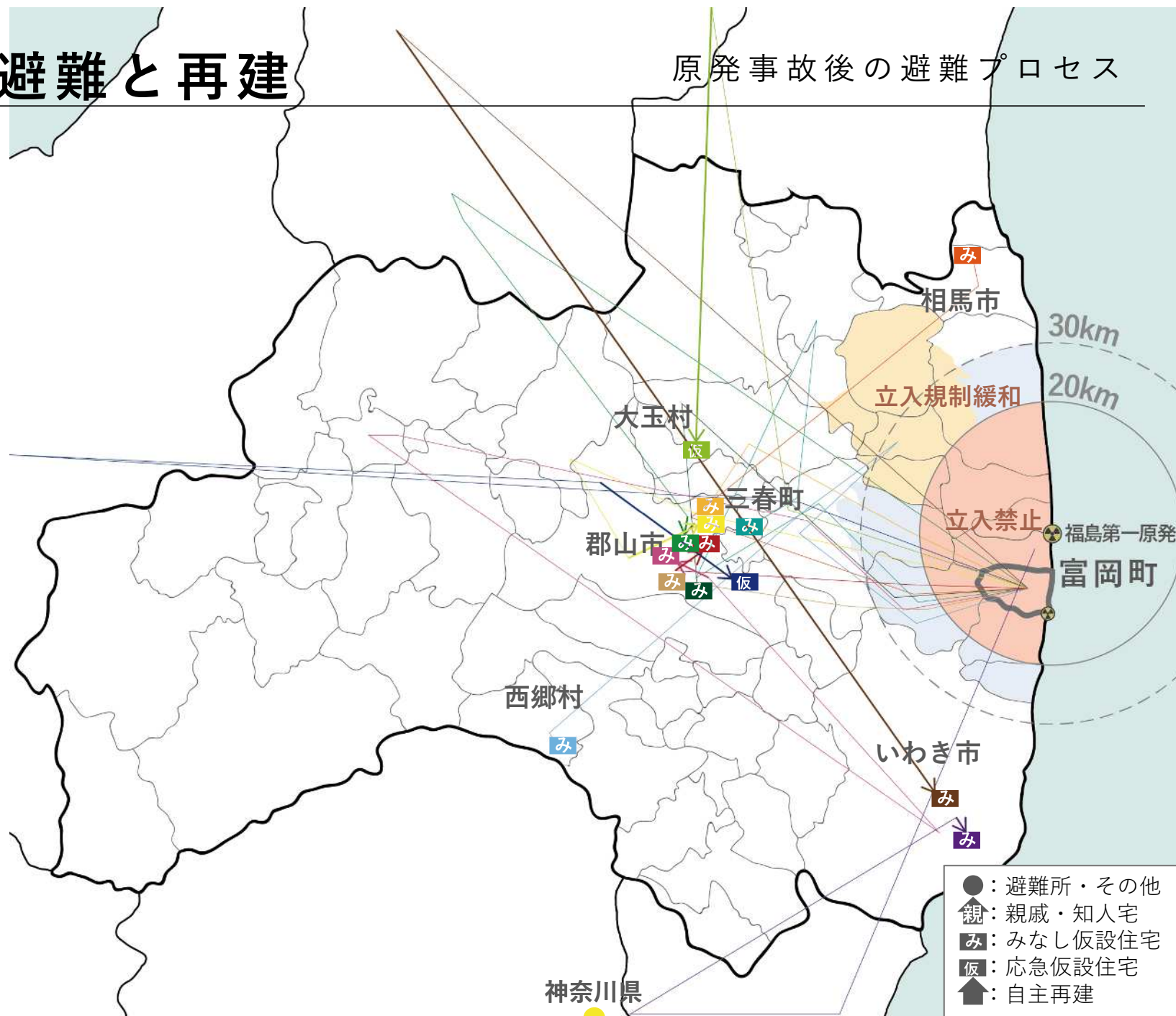
調査対象者の避難と再建

原発事故後の避難プロセス

3月下旬以降の動き

- A** 郡山のみなし仮設へ
- B** 郡山のみなし仮設へ
- C** 相馬のみなし仮設へ
- D** 郡山のみなし仮設へ
- E** 上京中
- F** 大玉の仮設住宅へ
- G** 郡山のみなし仮設へ
- H** 郡山のみなし仮設へ
- I** 三春のみなし仮設へ
- J** 近くのみなし仮設へ
- K** 郡山の仮設住宅へ
- L** いわきのみなし仮設へ
- M** いわきのみなし仮設へ
- N** 郡山のみなし仮設へ

土川喬太との共同研究

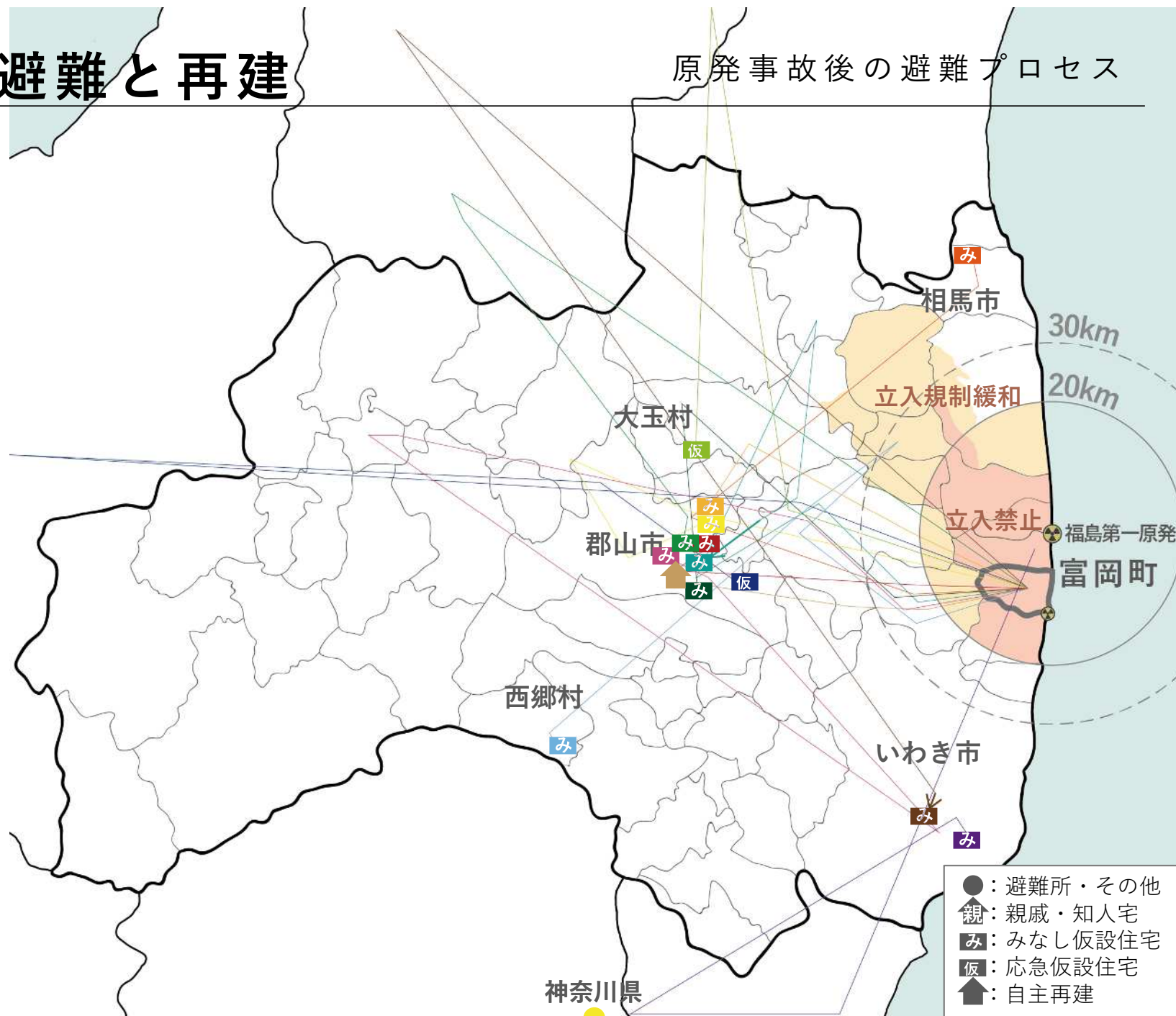


調査対象者の避難と再建

2012

- A** 郡山のみなし仮設へ
- B** 郡山のみなし仮設へ
- C** 相馬のみなし仮設へ
- D** 郡山のみなし仮設へ
- E** 上京中
- F** 大玉の仮設住宅へ
- G** 郡山のみなし仮設へ
- H** 郡山のみなし仮設へ
- I** 郡山のみなし仮設へ
- J** 近くのみなし仮設へ
- K** 郡山の仮設住宅へ
- L** いわきのみなし仮設へ
- M** いわきのみなし仮設へ
- N** 郡山の自主再建

原発事故後の避難プロセス



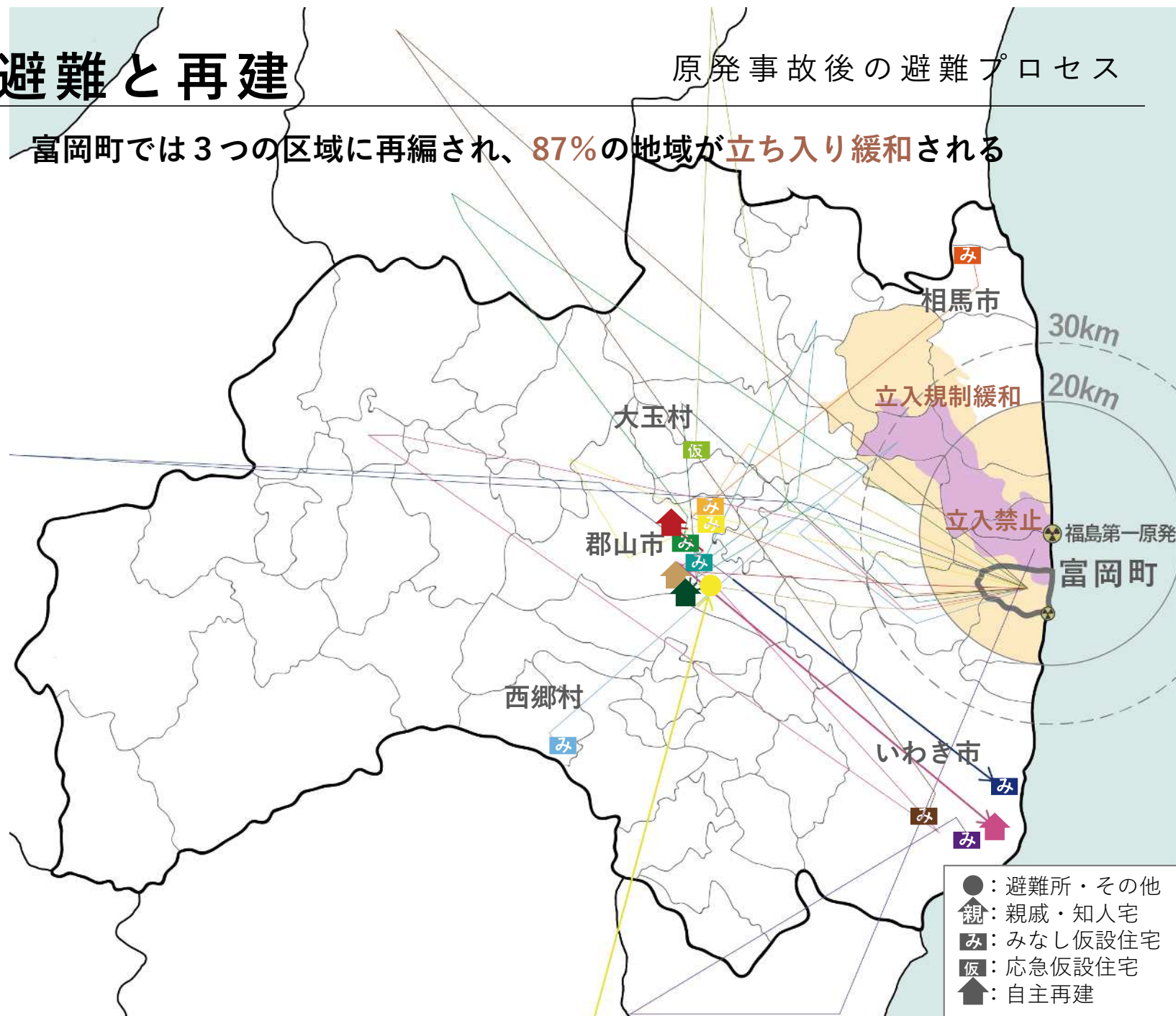
調査対象者の避難と再建

2013

原発事故後の避難プロセス

富岡町では3つの区域に再編され、87%の地域が立ち入り緩和される

- A** いわきで自主再建
- B** 郡山で自主再建
- C** 相馬のみなし仮設へ
- D** 郡山のみなし仮設へ
- E** 郡山の役場支所に勤務
- F** 大玉の仮設住宅へ
- G** 郡山のみなし仮設へ
- H** 郡山で自主再建
- I** 郡山のみなし仮設へ
- J** 近くのみなし仮設へ
- K** 郡山の仮設住宅へ
- L** いわきのみなし仮設へ
- M** いわきのみなし仮設へ
- N** 郡山の自主再建

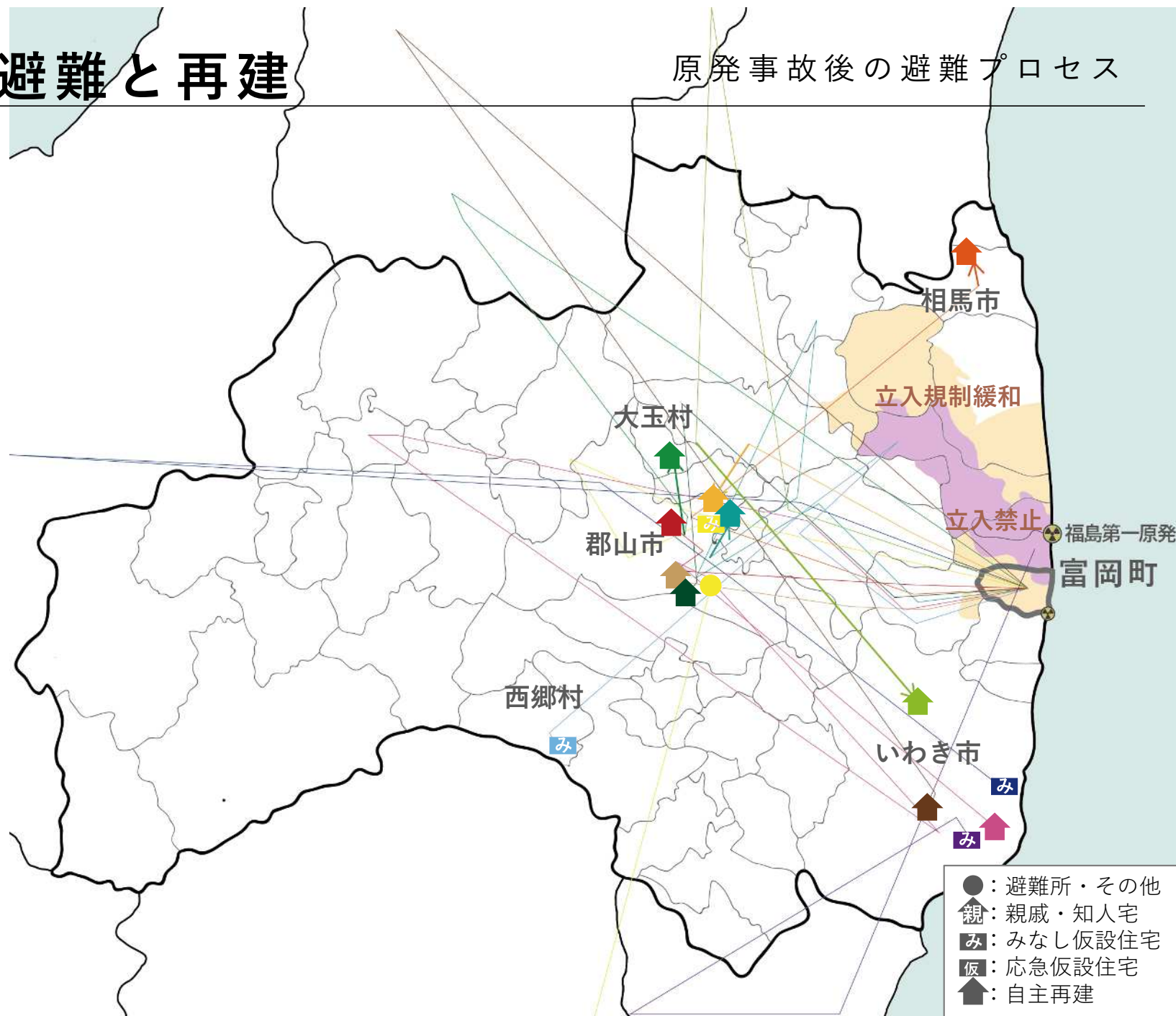


調査対象者の避難と再建

2015

原発事故後の避難プロセス

- A** いわきで**自主再建**
- B** 郡山で**自主再建**
- C** 相馬で**自主再建**
- D** 郡山で**自主再建**
- E** 郡山の役場支所に勤務
- F** いわきで**自主再建**
- G** 大玉で**自主再建**
- H** 郡山で**自主再建**
- I** 郡山で**自主再建**
- J** 近くのみなし仮設へ
- K** 郡山のみなし仮設住宅へ
- L** いわきのみなし仮設へ
- M** いわき**自主再建**
- N** 郡山の**自主再建**



- ：避難所・その他
- ▲：親：親戚・知人宅
- み：みなし仮設住宅
- 仮：応急仮設住宅
- ↑：自主再建

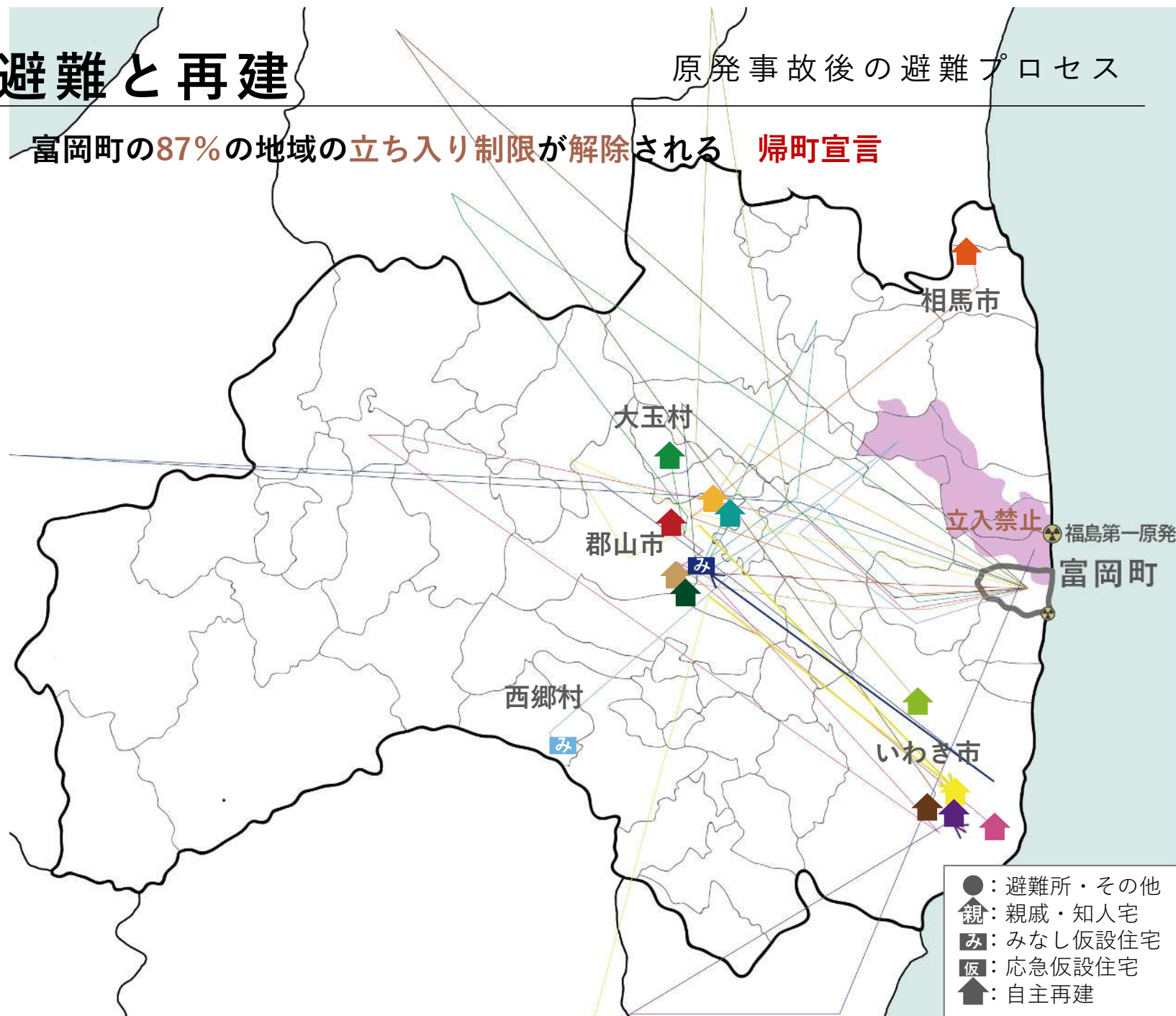
調査対象者の避難と再建

2017

- A** いわきで自主再建
- B** 郡山で自主再建
- C** 相馬で自主再建
- D** 郡山で自主再建
- E** いわきで自主再建
- F** いわきで自主再建
- G** 大玉で自主再建
- H** 郡山で自主再建
- I** 郡山で自主再建
- J** 近くのみなし仮設へ
- K** 郡山のみなし仮設へ
- L** いわきで自主再建
- M** いわき 自主再建
- N** 郡山の自主再建

富岡町の87%の地域の立ち入り制限が解除される 帰町宣言

原発事故後の避難プロセス

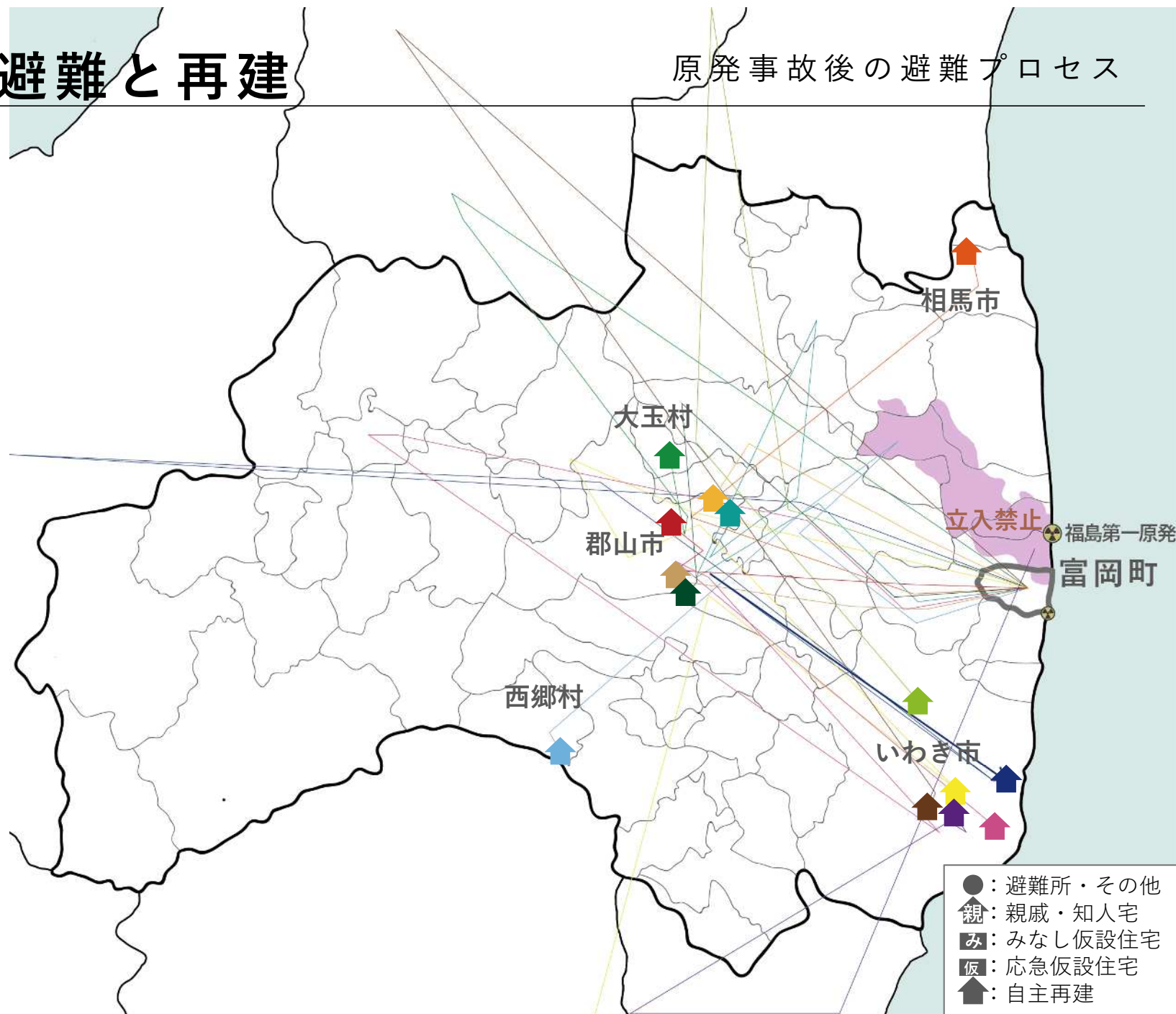


調査対象者の避難と再建

2019

原発事故後の避難プロセス

- A** いわきで**自主再建**
- B** 郡山で**自主再建**
- C** 相馬で**自主再建**
- D** 郡山で**自主再建**
- E** いわきで**自主再建**
- F** いわきで**自主再建**
- G** 大玉で**自主再建**
- H** 郡山で**自主再建**
- I** 郡山で**自主再建**
- J** 西郷村で**自主再建**
- K** いわきで**自主再建**
- L** いわきで**自主再建**
- M** いわき **自主再建**
- N** 郡山の**自主再建**



「通い」

原発事故後の避難プロセス

上段：自主再建した時期とその時の帰還意向

下段：通いを始めた時期と経緯

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
A			もう戻らないだろう	富岡で仕事が再開したため									
B			いずれ戻る										帰還するため
C					戻りたいが戻れない			自分で田畑を管理しなければならなくなったため					
D					戻れないだろう								
E							富岡で仕事が再開したため						
F					戻れないだろう					富岡での会議に参加するため			
G					戻りたいが戻れない			富岡での会議に参加するため					
H			戻れないだろう				富岡での会議に参加するため						
I					戻れないだろう							富岡で仕事を再開させるため	
J										戻りたい気持ちが徐々に薄れている			
K								戻れないだろう					
L								仕事が富岡に異動になったため					
M								戻りたいが戻れない				富岡の状況を知るため	
N					もう戻らないだろう								
					富岡で仕事を再開させるため								
			当分戻れないだろう										富岡で仕事が再開したため

「通い」

通いの実態

通いの主な目的 通いのきっかけとなり 最も頻度が高いもの

通いの副次的な目的 主な目的より頻度が低いものや インタビューの中で聞き取れたもの

- A 仕事
- B 家屋や農地の管理
- C 家屋や農地の管理
- D 家屋や農地の管理
- E 仕事
- F 所属する組織の集まり
- G 所属する組織の集まり
- H 所属する組織の集まり
- I 仕事
- J 家屋や農地の管理
- K 仕事
- L 仕事
- M 仕事
- N 仕事



所属する組織の会議／農地の管理
所属する組織の会議

所属する組織の会議
家屋の管理／スポーツ
家屋や地域の見回り

土地の管理／スポーツ／買い物
所属する組織の集まり
所属する組織の会議／知人との面会
子供たちの遊び
家屋の見回り
スポーツ／所属する組織の集まり
スポーツ

「通い」

通いのために整備・活用した空間資源



① 農村部（市街化区域以外）

A C D E I

② 都市部（市街化区域）

G H

③ 災害危険区域

J

④ 帰還困難区域

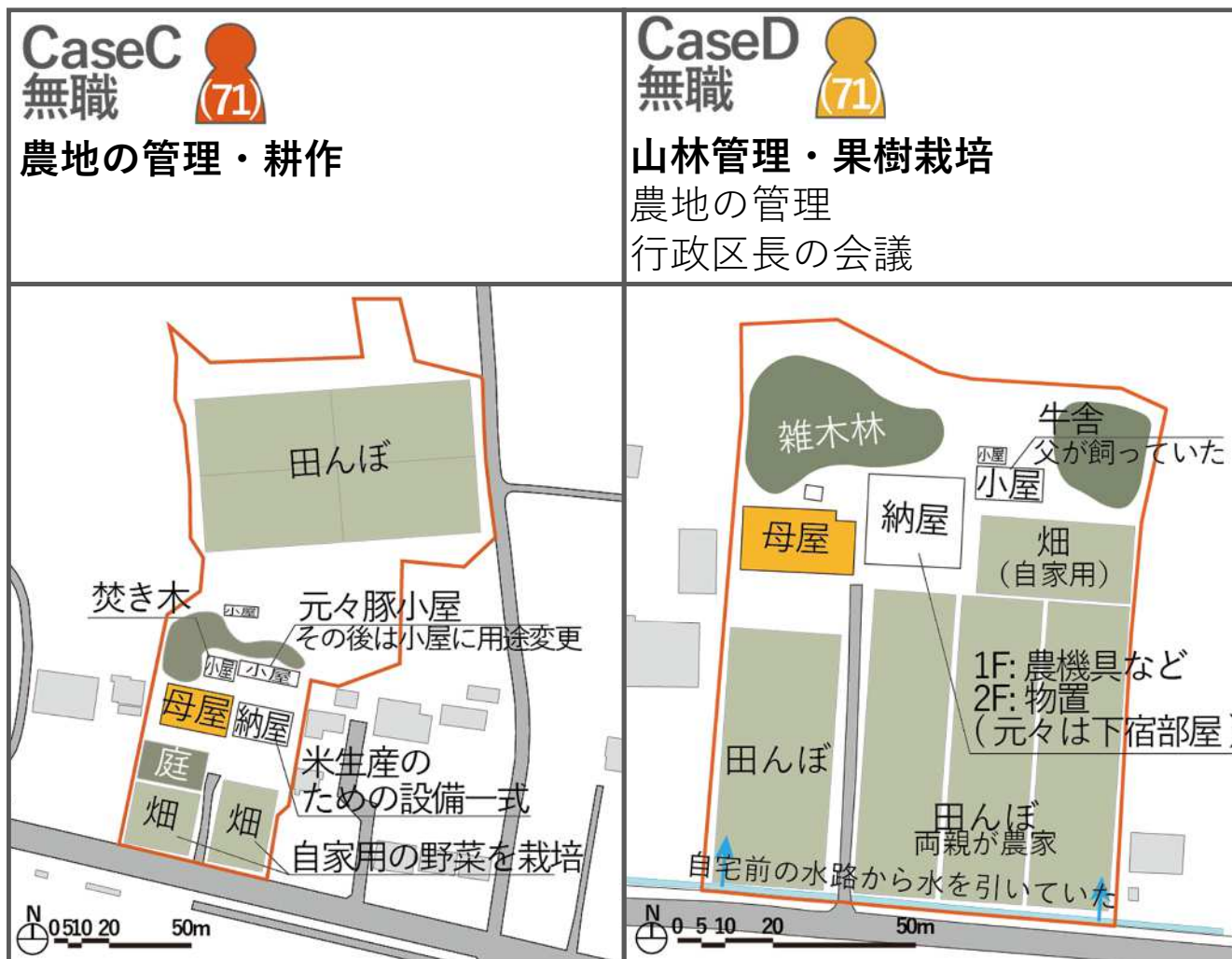
B F K L M N

「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

① 農村部 A C D E I

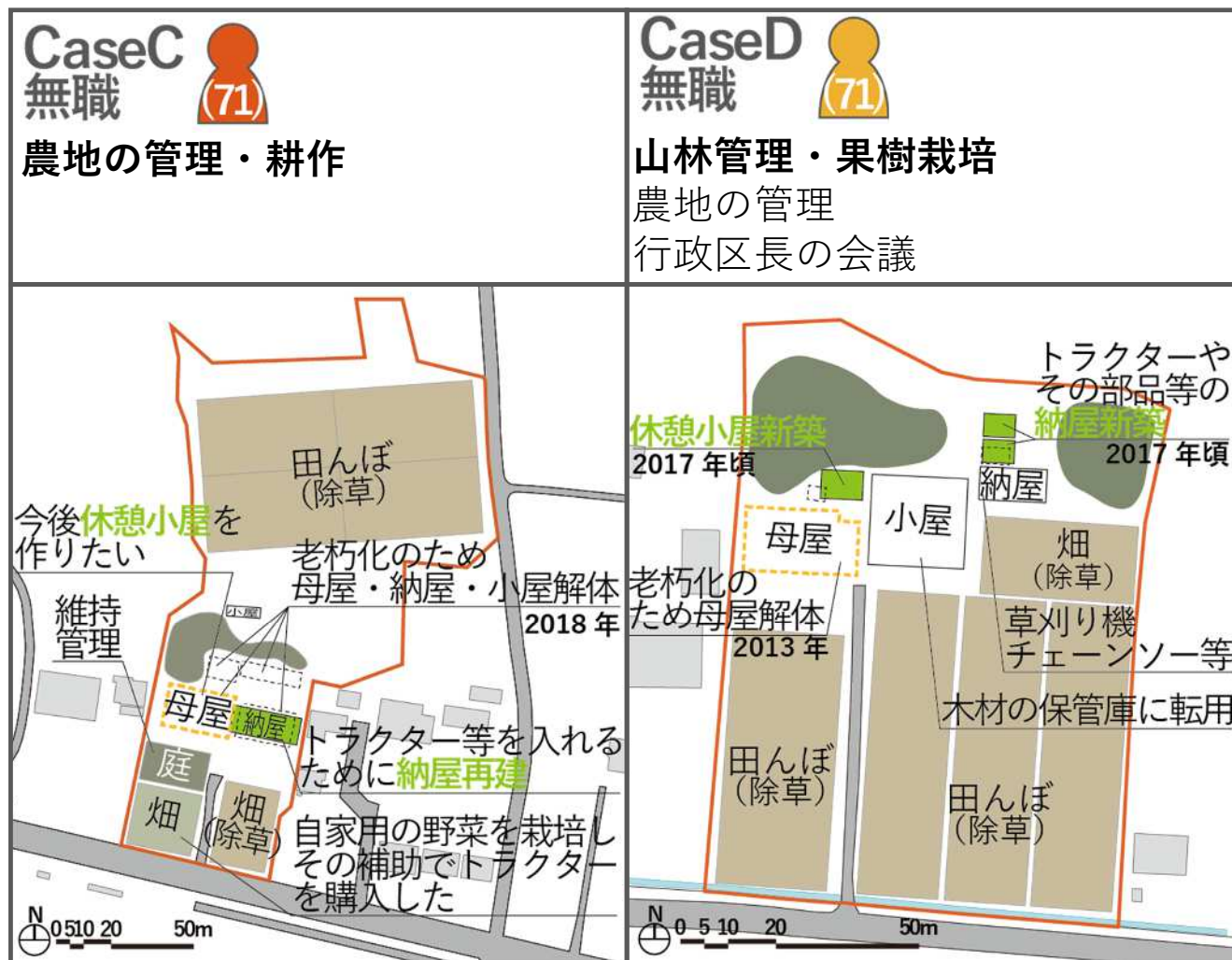
活用した空間資源



「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

① 農村部

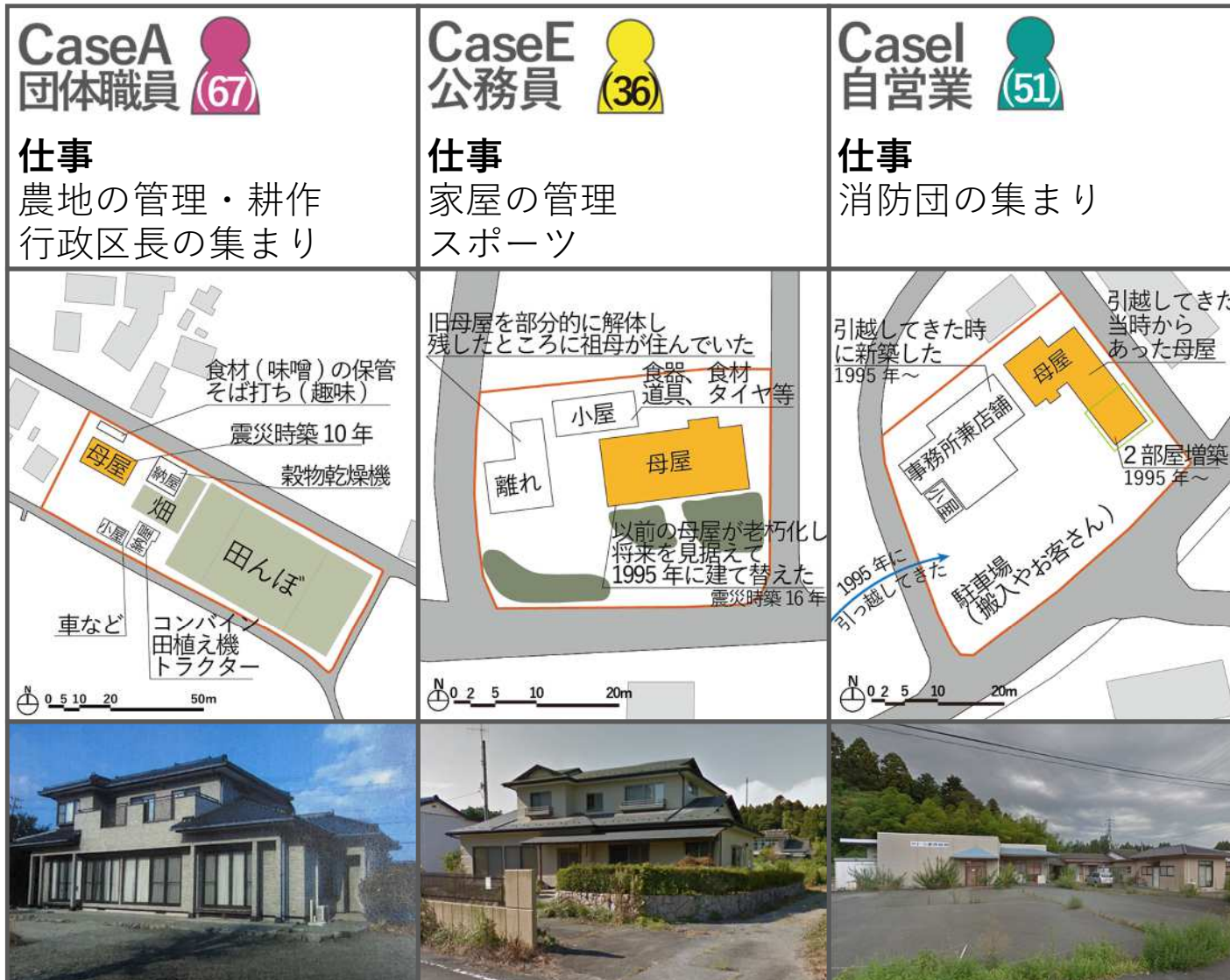
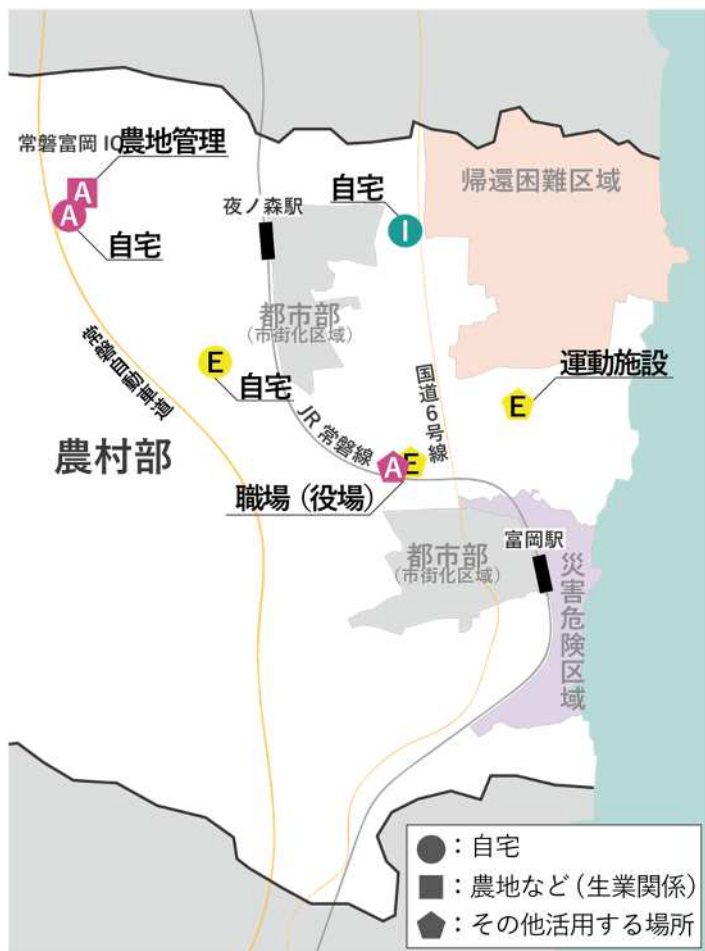


「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

① 農村部 A C D E I

活用した空間資源

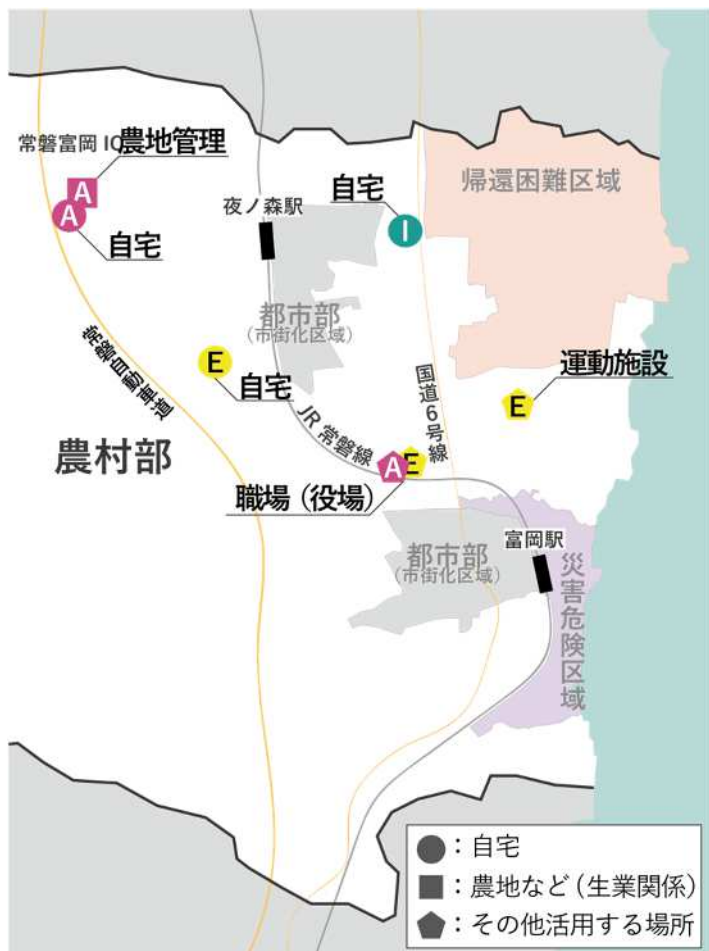


「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

① 農村部 A C D E I

活用した空間資源



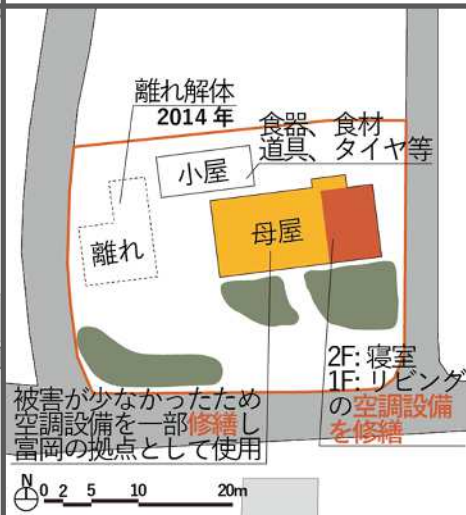
CaseA 団体職員 (67)

仕事
農地の管理・耕作
行政区長の集まり



CaseE 公務員 (36)

仕事
家屋の管理
スポーツ



CaseI 自営業 (51)

仕事
消防団の集まり

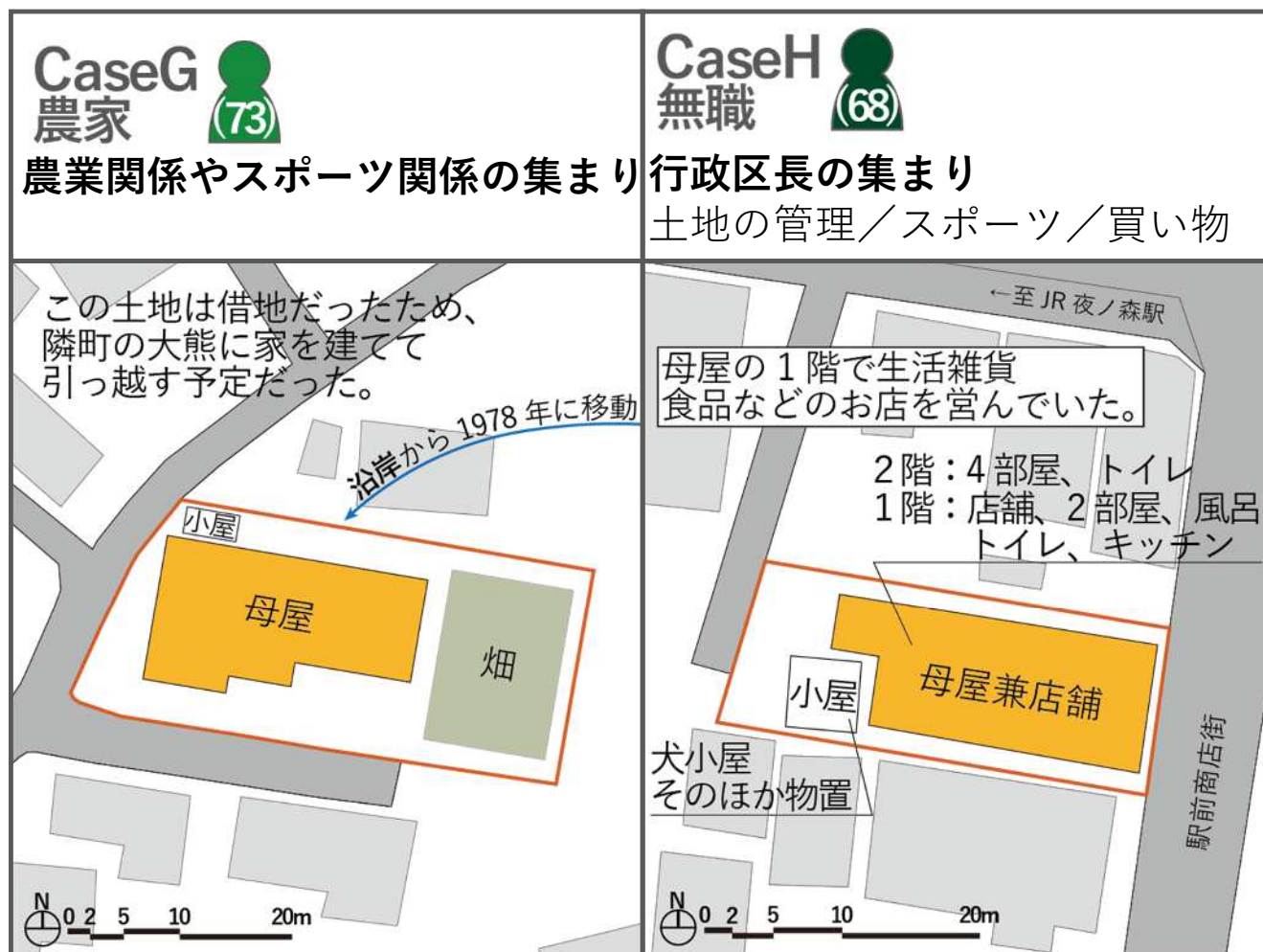
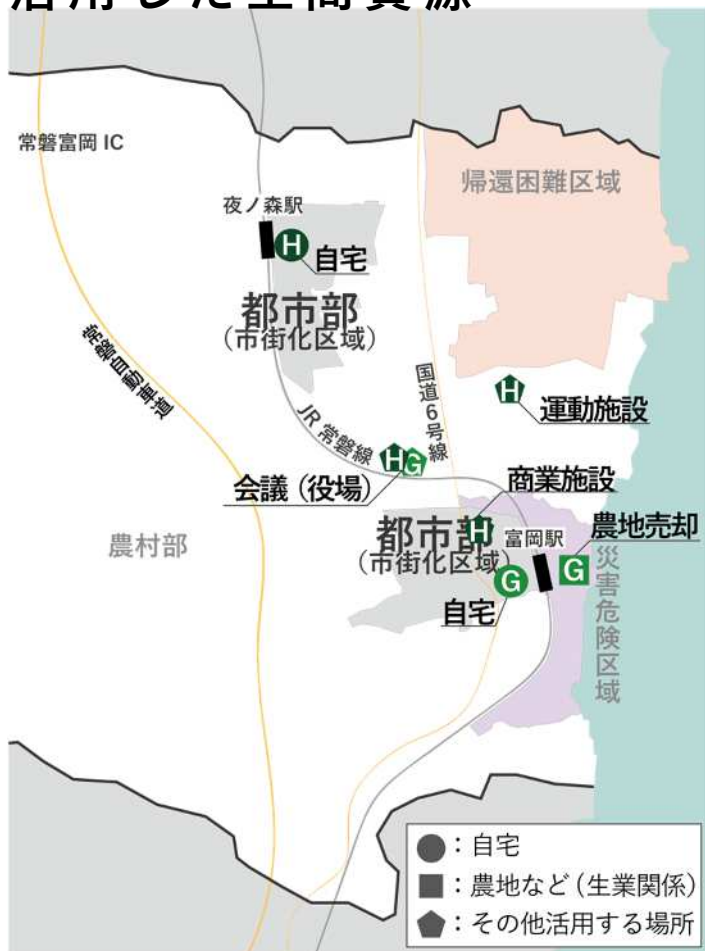


「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

① 都市部 G H

活用した空間資源

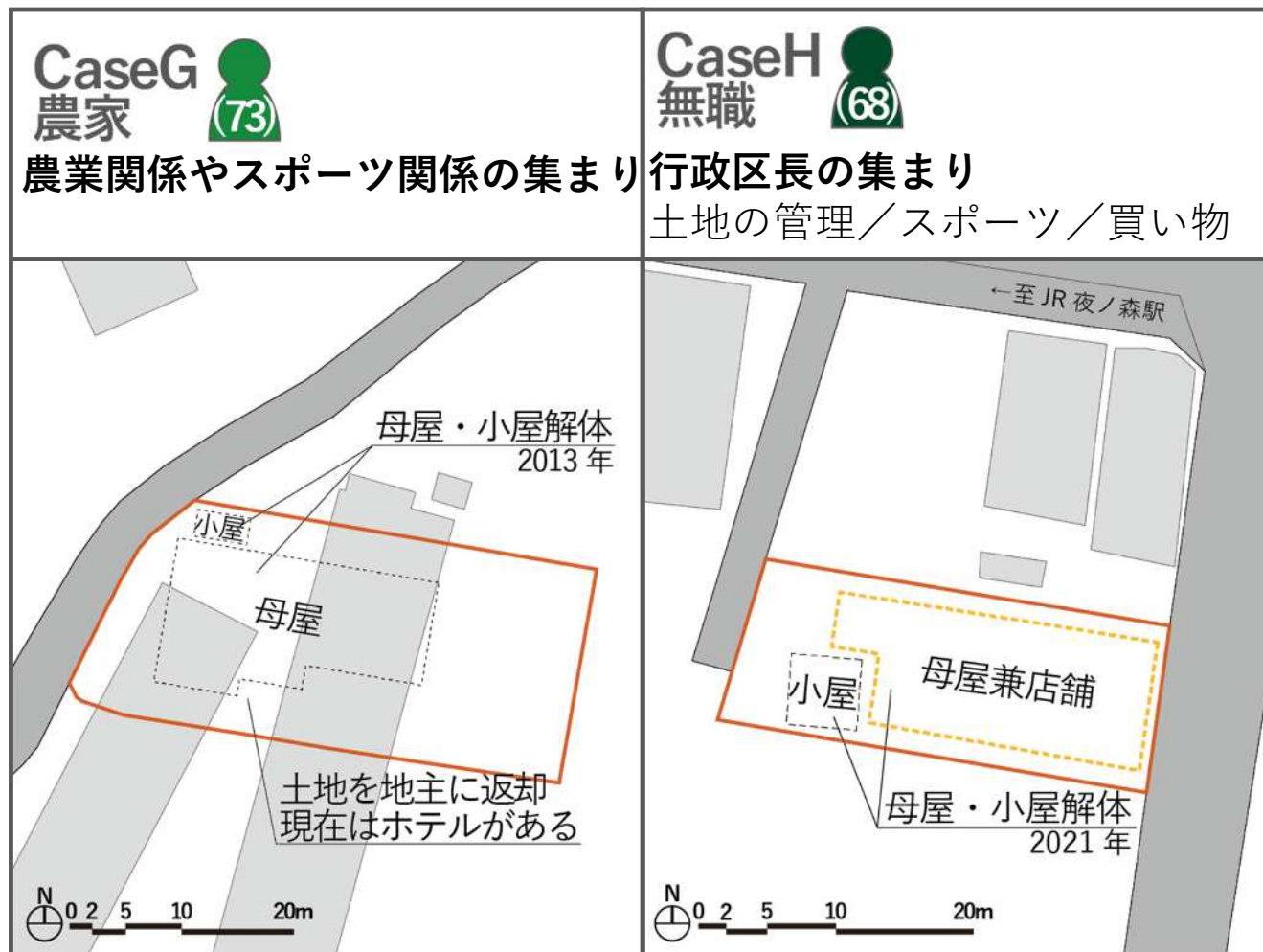
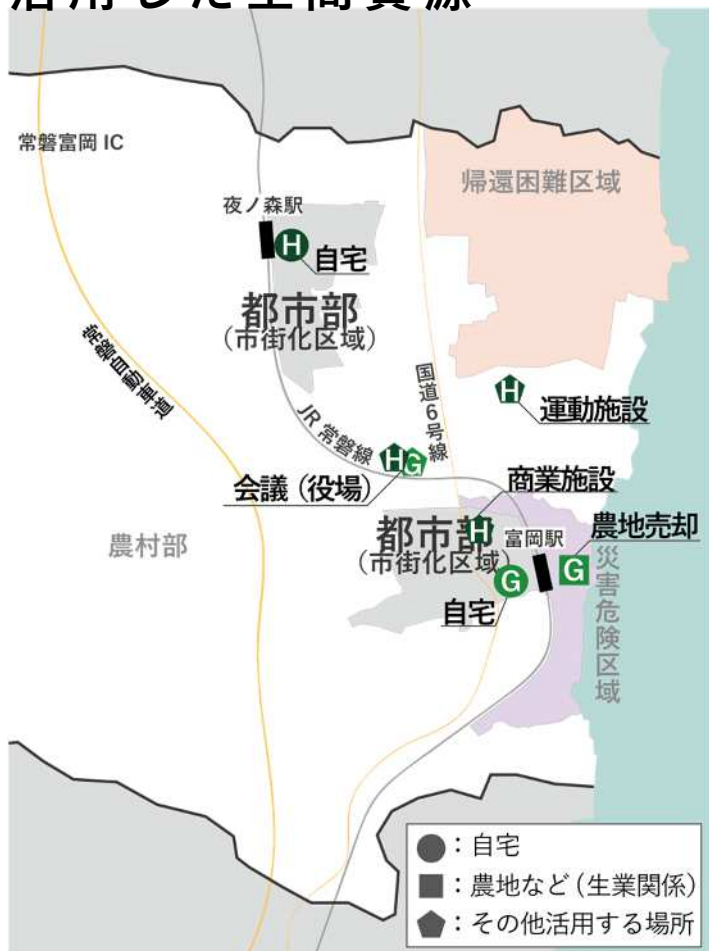


「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

① 都市部 G H

活用した空間資源



「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

④ 帰還困難区域

B F K L M N

活用した空間資源



CaseB 無職

(70)
家屋や農地の管理
行政区長の集まり



CaseK 公務員

(38)
仕事
子どもの遊び



CaseF アルバイト

(67)
行政区長の集まり
家屋や地域見回り



CaseL アルバイト

(61)
仕事
家屋の見回り



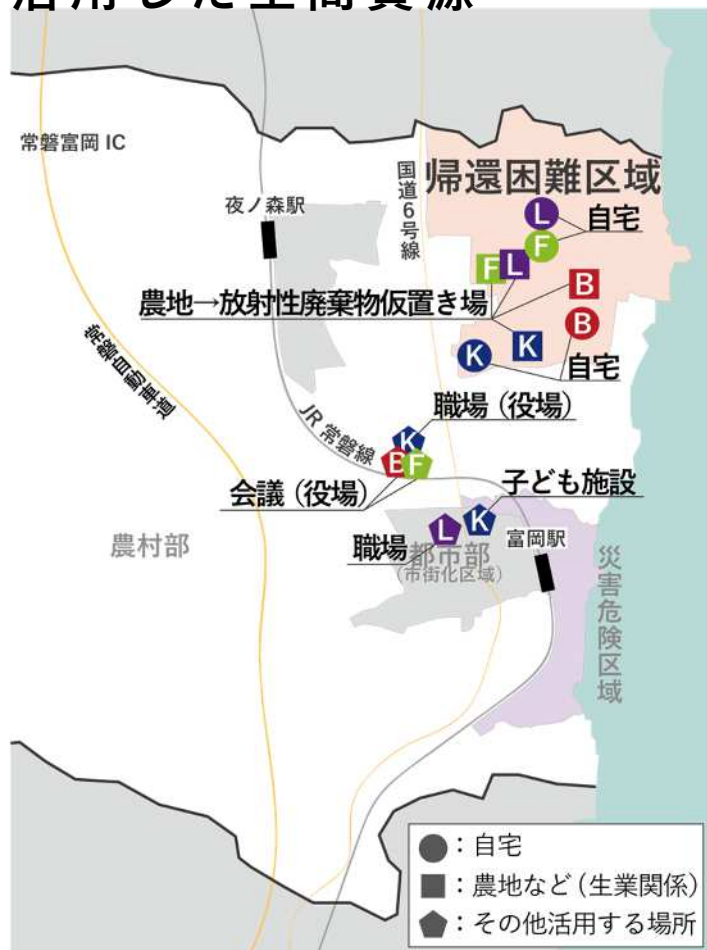
「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

④ 帰還困難区域

B F K L M N

活用した空間資源



CaseB 無職

(70) 家屋や農地の管理
行政区長の集まり



CaseK 公務員

(38) 仕事
子どもの遊び



CaseF アルバイト

(67) 行政区域長の集まり
家屋や地域見回り



CaseL アルバイト

(61) 仕事
家屋の見回り



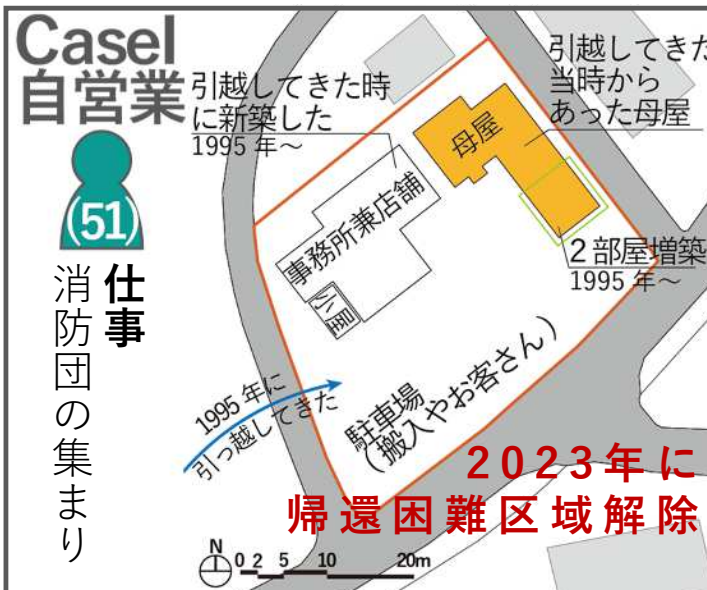
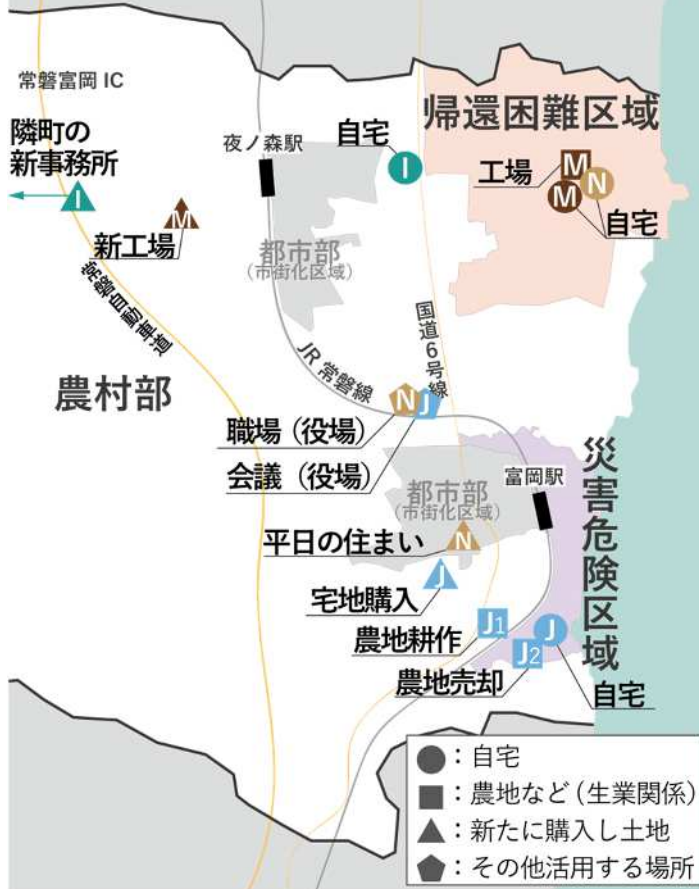
「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

- ① 農村部
- ③ 災害危険区域
- ④ 帰還困難区域

I
J
M N

活用した空間資源



「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

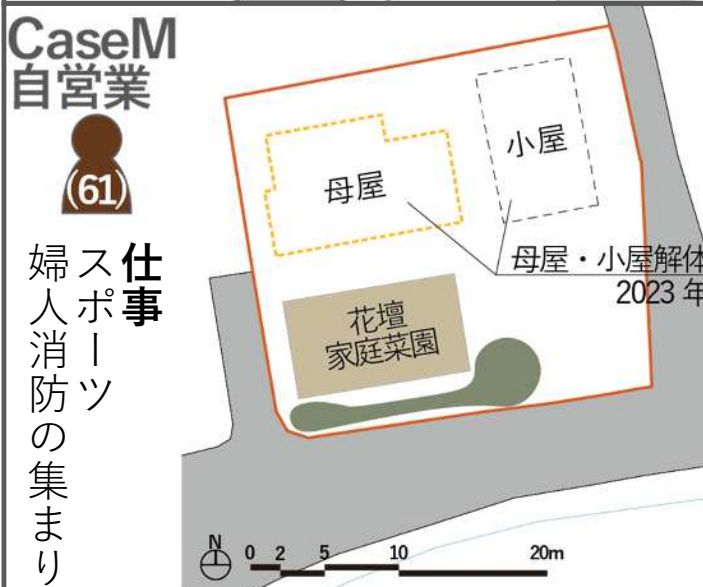
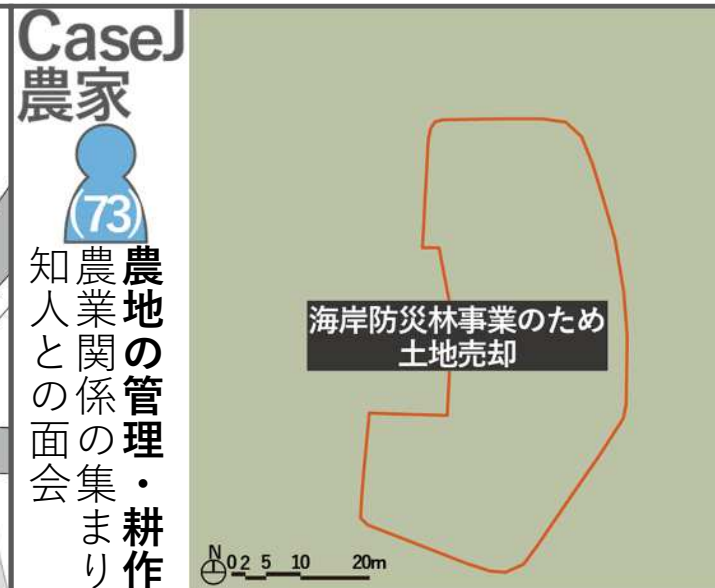
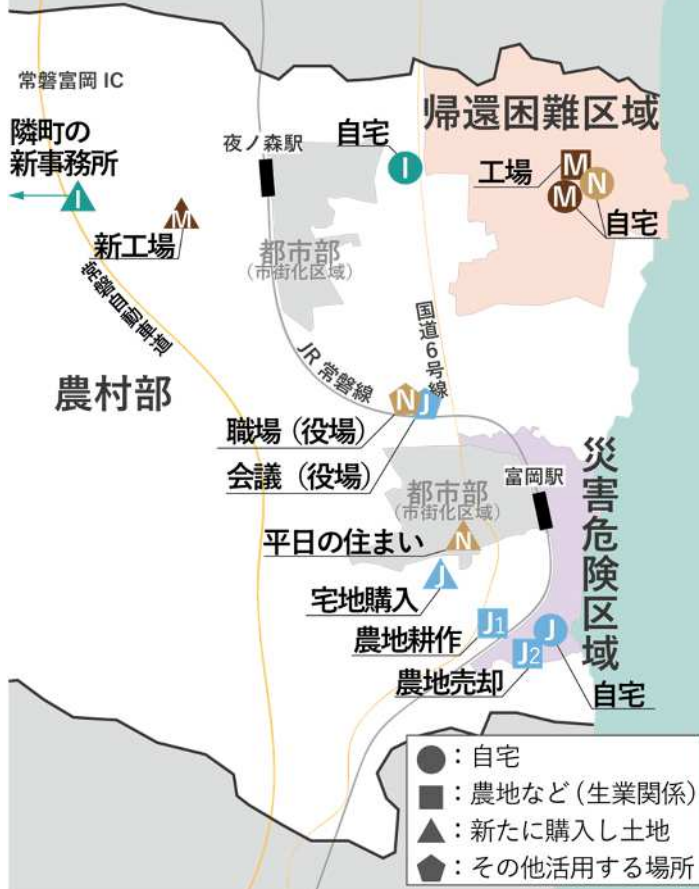
① 農村部

③ 災害危険区域

④ 帰還困難区域

I
J
M N

活用した空間資源



「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

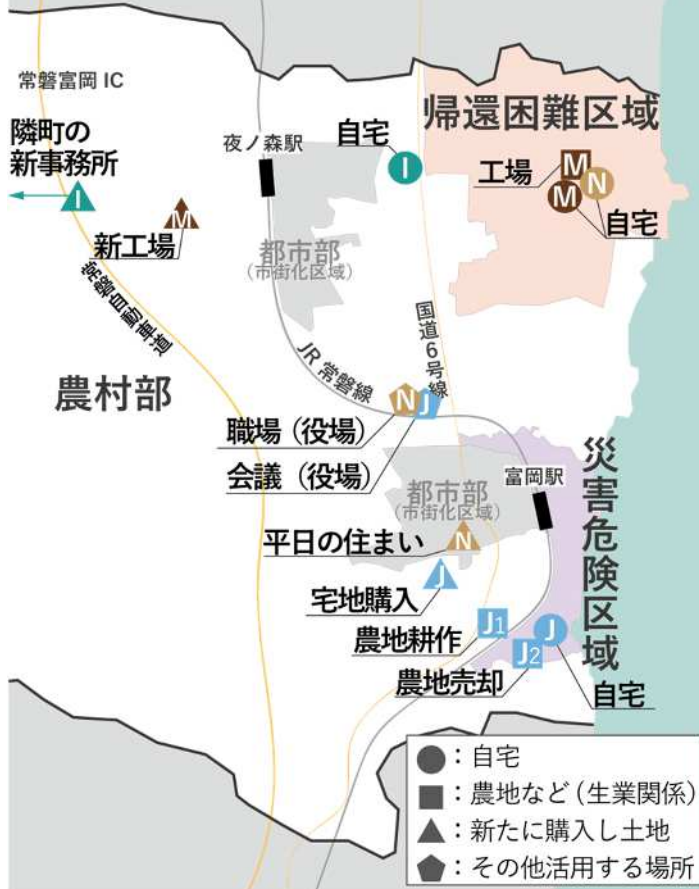
① 農村部

③ 災害危険区域

④ 帰還困難区域

I
J
M N

活用した空間資源



CaseI
自営業

(51)

仕事
消防団の集まり



CaseJ
農家

(73)

農地の管理・耕作
知人との面会



CaseM
自営業

(61)

仕事
スポーツ
婦人消防の集まり



CaseN
公務員

(46)

仕事
スポーツ



「通い」

通いのために整備・活用した空間資源

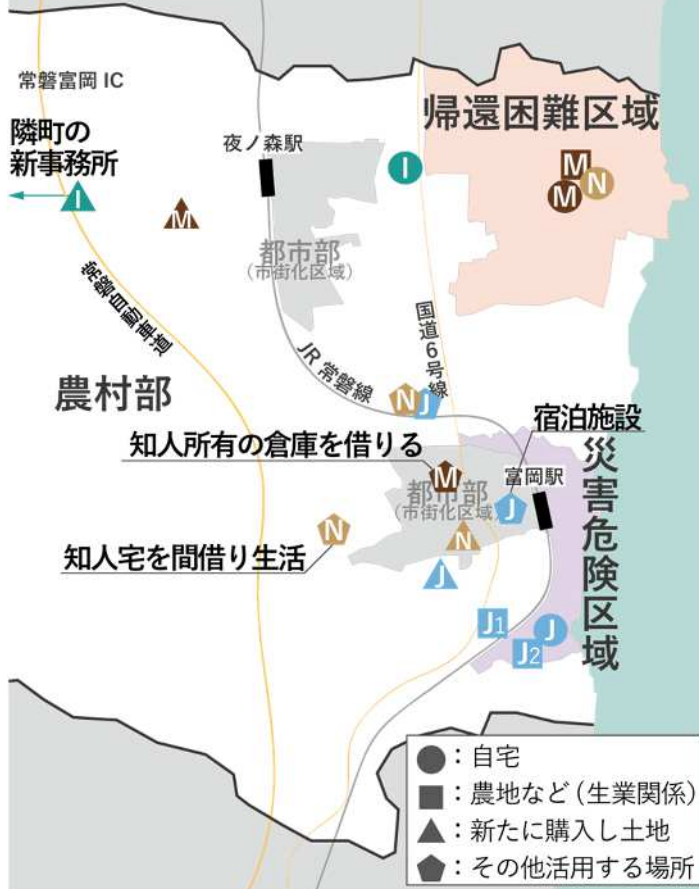
① 農村部

③ 災害危険区域

④ 帰還困難区域

I
J
M N

活用した空間資源



CaseI
自営業

(51)

仕事
消防団の集まり



CaseJ
農家

(73)

農地の管理・耕作
知人との面会



CaseM
自営業

(61)

仕事
スポーツ
婦人消防の集まり



CaseN
公務員

(46)

仕事
スポーツ



「通い」の意味

① 地域運営の視点

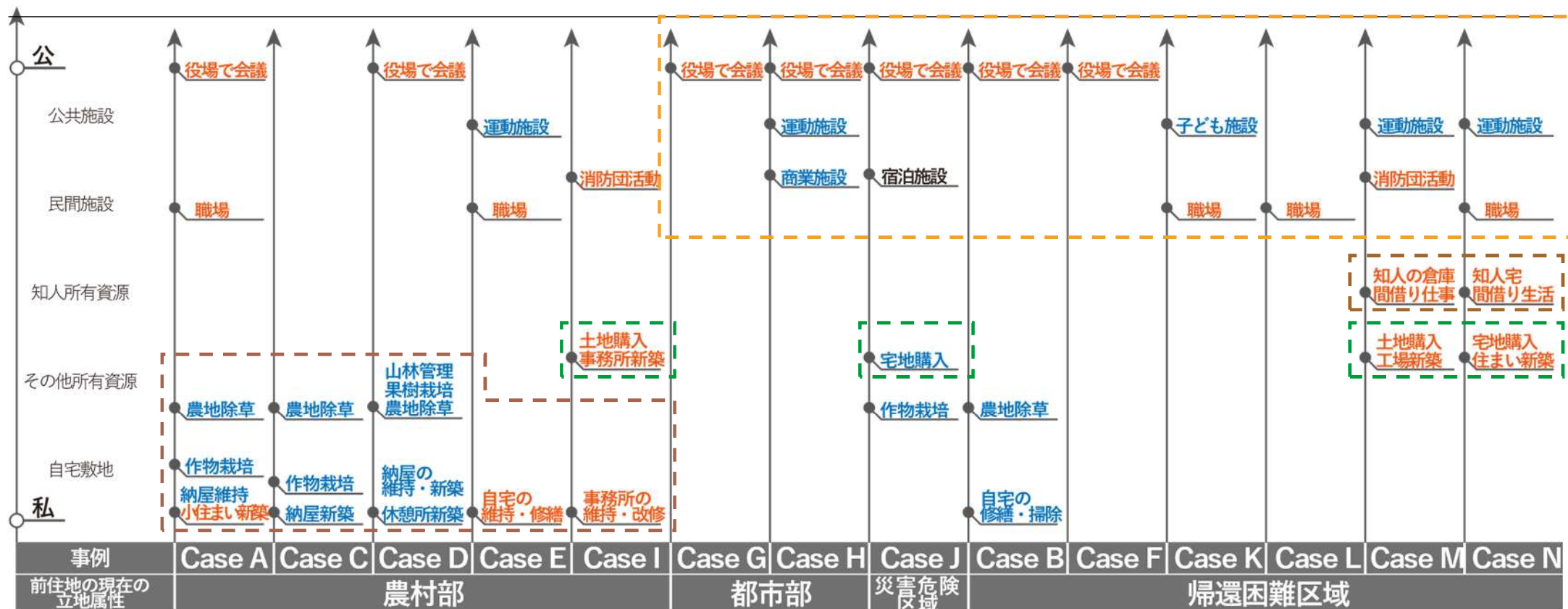
「通い」は地方再生においても重視されている「関係人口」のひとつの形ととらえられる。自治体存続、運営におけるマンパワーを確保する上でも重要。

② 被災者の暮らしの維持の視点

「戻る」「戻らない」の二者択一は住民の分断を引き起こす。避難先で新しい生活を構築しながら、地元に通うことで、地域で役割を果たしたり、生まれ育った土地に癒されたりすることは、甚大な物理的・心的被害を受けた住民の暮らしを維持する上で重要。

→「住民票」「国勢調査」「帰還届け」などで住民の居住地を把握する現行の手法で「通い」は捉えられない。＝制度ではフォローされにくい事象

復興の「足掛かり」となる既存の土地や建物



土川喬太との共同研究

被災者が直接管理できる土地や家屋があることが故郷とのつながりを担保している
 + 移住者（リタイア層／起業を目指す人）にとっても既存建物の存在は重要

→（公費）解体－新築に加え、土地や家屋をどのように維持するか、について再検証すべきかもしれない